

鹿児島県総合教育センター  
平成24年度長期研修研究報告書

研究主題

子どもの主体性を高め，目的に応じて読む能力を  
育成する国語科学習指導の在り方

- 説明的文章を教材として，単元を貫く言語活動を

位置付けた指導法の改善 -



霧島市立日当山小学校  
教諭 田野辺 浩一

## 目 次

研究主題設定の理由	1
研究の構想	1
1 研究のねらい	1
2 研究の仮説	2
3 研究の計画	2
研究の実際	2
1 研究主題に関する基本的な考え方	2
(1) 「子どもの主体性を高める」とは	2
(2) 説明的文章において育成する「目的に応じて読む能力」とは	3
(3) 説明的文章を教材として、単元を貫く言語活動を位置付ける理由	4
2 子どもの実態調査等及び教師の意識調査の実施と考察	5
(1) 標準学力検査CRTの結果に見られる子どもの課題	5
(2) 子どもの実態調査を基にした指導上の課題	5
(3) 教師の意識調査の結果を基にした指導上の課題	6
(4) 調査結果等を基に設定した本研究の視点	6
3 子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成する国語科授業の構想	7
(1) 目的に応じて読む能力の設定	7
(2) 目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動の設定の工夫	8
(3) 単元を貫く言語活動を指導過程へ位置付けた単元構成の工夫	9
(4) 子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成する指導法の改善	11
4 検証授業の実施と考察	12
(1) 検証授業の概要	12
(2) 検証授業のねらい	13
(3) 検証授業における単元を貫く言語活動の設定の仕方	13
(4) 検証授業の実際	14
(5) 検証授業の成果と課題	17
(6) 検証授業の課題を踏まえた指導法の改善	18
5 検証授業の実施と考察	18
(1) 検証授業の概要	18
(2) 検証授業のねらい	18
(3) 検証授業における単元を貫く言語活動の設定の仕方	19
(4) 検証授業の実際	20
(5) 検証授業の成果と課題	26
(6) 検証授業の課題を踏まえた指導法の改善	27
研究のまとめ	28
1 研究の成果	28
2 今後の課題	28
引用・参考文献	

## 研究主題設定の理由

OECDによるPISA調査などの結果から、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があることが明らかとなった。これを受けて、平成20年1月に出された中教審答申では、知識・技能を活用する学習活動を各教科で行い、言語の能力を高める必要があるとして、「言語活動の充実」を教育内容に関する主な改善事項の第一に位置付けた。小学校では昨年度から新学習指導要領が全面実施され、国語科においても、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を高めることができるよう、言語活動の充実を強く意識した授業づくりが求められている。

本校の子どもの実態を見ると、平成23年度に4年生を対象として実施した標準学力検査CRTにおいて、「国語への関心・意欲・態度」に関する項目は、全国平均と比べ5.3ポイント低かった。また、「読むこと」領域の得点率は三領域の中で最も低く、特に、小領域の「説明的な文章を読むこと」では、全国平均と比べ8.3ポイント下回った。誤答や無答の多かった問題を細かく見ていくと、特に、説明的文章の問題では、接続語の意味や役割に着目しながら段落相互の関係を捉える能力や、文章の叙述に即して大事なところを読む能力に課題があることが明らかとなった。説明的文章を教材として扱ったふだんの学習においても、課題意識を明確にもって自ら教材と向き合おうとする姿があまり見られないのが実情である。また、筆者が何をどのように説明しているか、段落相互の関係に注意しながら読むことができずに活動が停滞してしまう子どもの様子も見られる。さらに、単元の中で、教材を通して身に付けた読む能力を、話すことや書くことなどの表現活動に十分に生かすことができない子どもも多い。

それは、説明的文章を教材とする単元において、子どもにとって学ぶ意味や価値を感じられるような学習課題の設定が十分になされていなかったことと深く関係していると考えられる。また、授業づくりにおいて、中心となる語や文を捉え段落相互の関係を考えながら読むなどの、子どもに身に付けさせたい読む能力を明確にしないまま、個々の言語活動をただ並べただけの授業構想であったり、教科書等の教材を読む活動とそれを生かした表現活動との関連が十分に図れなかったりしたことなどが要因として考えられる。

そこで、本研究では、「読むこと」領域の説明的文章の指導において、例えば、調べた内容を友達に紹介するために段落の内容や書き手を絞って教材を読むなどの、目的に応じて読む能力の育成に適した言語活動を単元を貫いて位置付け、単元における明確な課題意識をもって解決に取り組ませる指導過程等の工夫改善に取り組みたい。このことによって、子どもは主体性を高め、目的に応じて読む能力を身に付けることができると考え、本主題を設定した。

## 研究の構想

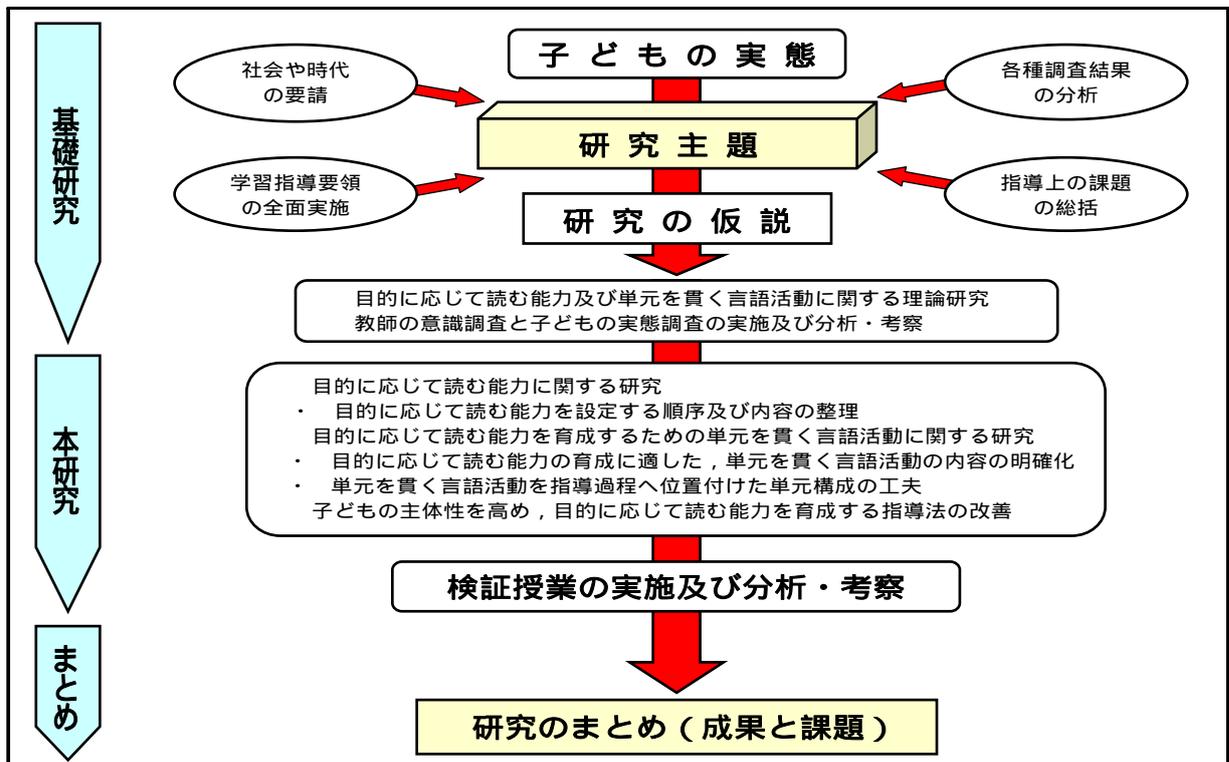
### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領や参考文献等を基に、研究主題についての基本的な考え方を明らかにする。
- (2) 子ども及び教師を対象とした実態調査や意識調査などから、指導上の課題について明らかにする。
- (3) 指導事項等を基に、目的に応じて読む能力を設定する順序及びその内容について明らかにする。
- (4) 目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動の内容や、指導過程への位置付け方について明らかにする。
- (5) 子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成するための具体的な指導の手立てについて明らかにする。
- (6) 検証授業の分析を基に、研究の成果と課題について明らかにする。

## 2 研究の仮説

「読むこと」領域の説明的文章の指導において、目的に応じて読む能力の育成に適した言語活動を単元を貫いて位置付け、単元における明確な課題意識をもって解決に取り組ませる指導過程等の工夫改善を行うならば、子どもは主体性を高め、目的に応じて読む能力を身に付けることができるであろう。

## 3 研究の計画



### 研究の実際

#### 1 研究主題に関する基本的な考え方

##### (1) 「子どもの主体性を高める」とは

益地憲一<sup>\*1)</sup> (2002) は、子どもが主体性をもつことを、「学び手としての自覚を持ち、自ら進んで学習に取り組んでいくこと」と述べている。また、子どもが主体性をもつための要件を、「学習のめあてと見通しをしっかりと持ち、学ぶ方法を理解して学習に取り組み、学習の歩みと成果を確かめること」としている。このような学びを通して、子どもは、学ぶことの喜びや充実感、達成感を味わうことができると考えられる。このことは、学習指導要領の総則における「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」にも盛り込まれ、その中には、次頁図1の子どもが主体性をもつための要件（「子どもの主体性を高める学習指導」）と重なる部分が見られる。これらは、学習指導要領における学力の重要な3要素（基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）のうち、特にと密接に関わっている。

また、中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針には、重点化して育成すべき能力として、「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」が示されている。このうち、「実生活に生きてはたらく国語の能力」（小学校においては日常生活）

\*1) 益地 憲一 編著『小学校 国語科指導の研究』2002 建帛社

とは、大村はま<sup>\*2)</sup> (1983) が述べている「主体的な学習 - 虚の場でなくて実の場の学習とは、つまりほんとうに自分の生活目的のために立ち上がっているような姿勢にもっていくこと」と、同義であると捉えることができる。

以上のことから、子どもの主体性を高めるためには、日常生活に生きて働く課題を設定、解決、活用させ、そこに必要となる基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用させる指導過程を構築することが重要であると考え(図1)。(一単元における指導過程において、課題の設定を単元の第1次、課題の解決を第2次、解決した課題の活用を第3次として、それぞれ位置付けを行った。以下、単元の指導過程を、第1次・第2次・第3次として表す。)

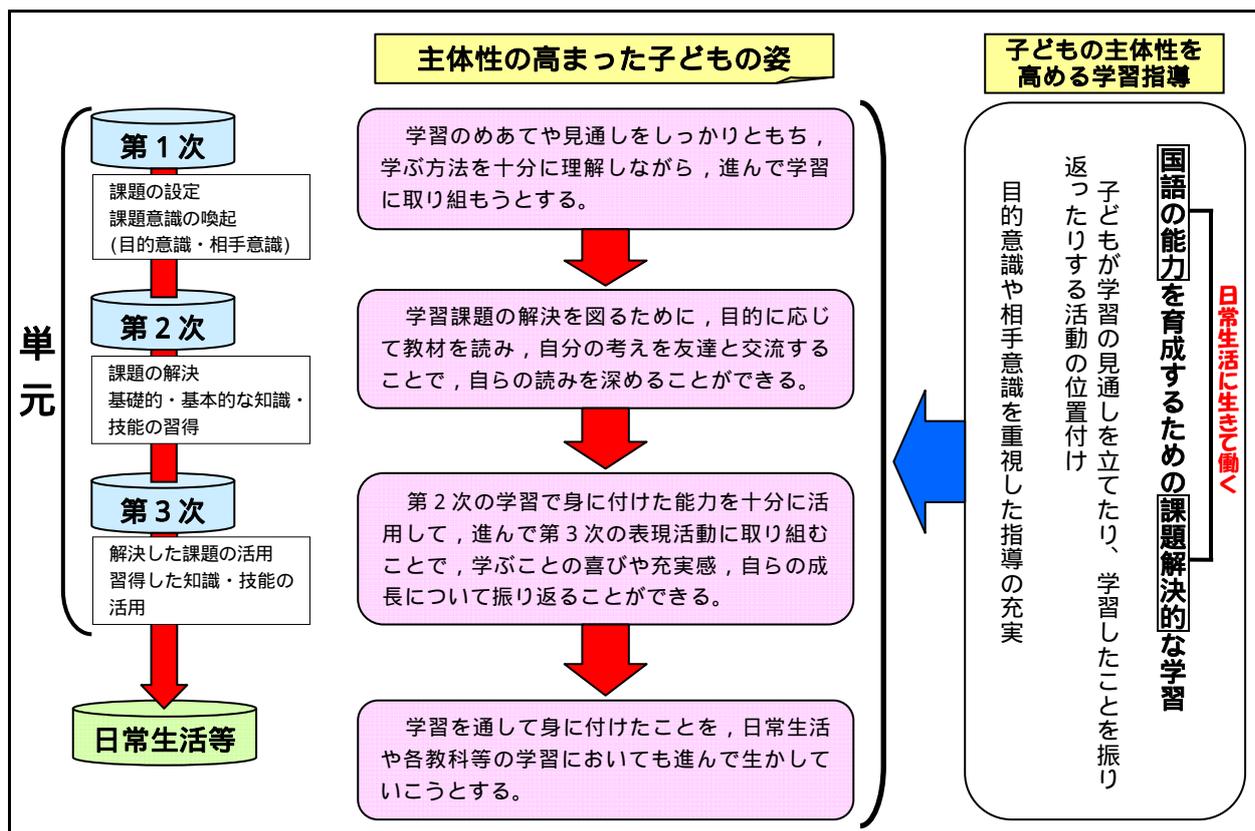


図1 子どもの主体性を高める学習指導とそれによって高まった子どもの姿

(2) 説明的文章において育成する「目的に応じて読む能力」とは

子どもの主体性を高めるためには、目的意識や相手意識を重視した課題解決的な学習に取り組むことが大切である。このことを踏まえ、日常生活の様々な機会や場面において、目的に応じ、多様な本や資料、文章等を読み方を工夫して読み、読んだ内容や形式に関する情報について活用する能力を育成することが必要となる。目的とは、「読み取る方法を習得するために読んだり、情報について理解し、調べるために読んだり、文章等を楽しみ味わうために読んだりすること」と捉える。このような目的に応じた読みを通して、子どもの日常生活に必要な国語の能力を育むことができると考える。

また、「読む能力」とは、「小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語」において学年の「C 読むこと」に示されている目標の前段の部分と内容(1)の指導事項を指している。具体的に、低学年では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと、中学年では、目的に応じて、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら読むこと、高学年では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、

\*2) 大村 はま 著『大村はま 国語教室 11』 1983 筑摩書房

事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながらかんたりすることを指している。

以上のことから，本研究における「目的に応じて読む能力」を，図2の下段に示す「段落の内容や書き手を絞って読む能力」（中学年）や「内容を的確に押さえながら要旨を捉えて読む能力」（高学年）など，子どもが目的意識や相手意識を重視した課題解決的な学習に取り組む中で身に付けることのできる，実生活に生きて働く国語の能力と捉える。これらは，学年段階ごとに，具体的に身に付けさせるべき能力の育成を目指し，重点的に指導していく必要がある。

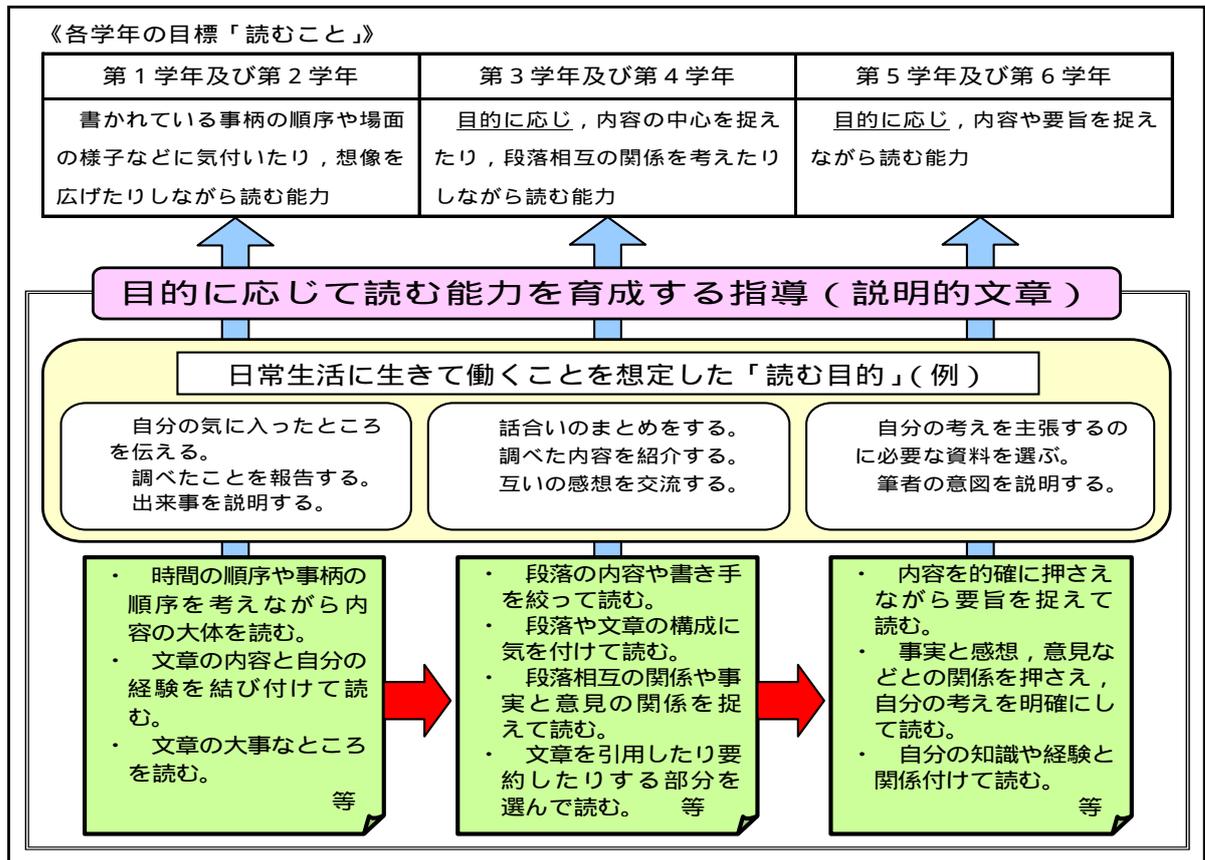


図2 各学年段階において身に付けさせたい「目的に応じて読む能力」（説明的文章）

(3) 説明的文章を教材として，単元を貫く言語活動を位置付ける理由

国語科では，言語活動を通して指導事項を指導することが基本となる。したがって，それぞれの言語活動が何のつながりももたずに行われるのではなく，当該単元における指導のねらいを十分に達成するため，一連の学習の過程として単元全体を貫いて行われるようにする必要がある。そのため，説明的文章を教材として，単元を貫く言語活動を位置付けることにより，教師にとっては，指導のねらいが単元の始めから終わりまで一貫していることから，当該単元でねらう能力を明確にして指導することが可能になる。また，子どもにとっては，目的意識や相手意識などを一貫させて言語活動に取り組むことにつながり，その結果，一人一人が自ら進んで学ぶことができるようになると思われる。

本研究では，「子どもの主体性」と「目的に応じて読む能力」を相互に結び付け，相乗的に高めさせるために，単元を貫く言語活動の指導過程への位置付けを図り，子どもが自ら学び，課題を解決していくための学習過程をより一層明確にしたい。このことを通して，子どもは自ら教材と向き合い，学習を通して身に付けた国語の能力を，日常生活や各教科等の学習にも進んで生かしていこうとする主体性を高め，実生活における活用を意識して，目的に応じて読む能力を身に付けることができると思われる。

## 2 子どもの実態調査等及び教師の意識調査の実施と考察

調査等の名称	実施の時期	調査等の対象
標準学力検査 CRT	平成24年 1月	霧島市立日当山小学校 4年生110人
子どもの実態調査 教師の意識調査	平成24年 6月	霧島市立日当山小学校 3年生38人 4年生34人 5年生34人 6年生38人 教師12人

### (1) 標準学力検査CRTの結果に見られる子どもの課題

表1から、最も得点率の低い観点  
は「読む能力」であることが分かる。  
また、「国語への関心・意欲・態度」  
については、全国平均と比べ、約5  
ポイント下回る結果となっている。

図3は、平成24年1月に実施した標準学力検査CRT（国語）における本校4年生の各小領域の得点率を表したものである。全11項目のうち、全国平均と比較して最も得点率の低かった項目は「説明的な文章を読むこと」で、全国との差は約8ポイントに達する。また、説明文における各小問の得点率（図4）について詳しく見ると、段落相互の関係を捉え、問いに対する答えが書かれている段落や、話題の転換を示す接続語（「ところで」）が入る段落を見付けたりする問題で、4割～5割の子どもにつまずきが見られる。さらに、文中から問いかけの文を見付け、条件に即して書き抜く問題では、6割以上の子どもが不正解となるなど、文章の叙述に即して大事なところを読む能力に課題が見られる。

表1 CRT（国語）における本校4年生の観点別の得点率

	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
学年	62.2%	75.5%	57%	51.8%	70%
全国	67.5%	75.6%	57.3%	55.1%	73.1%

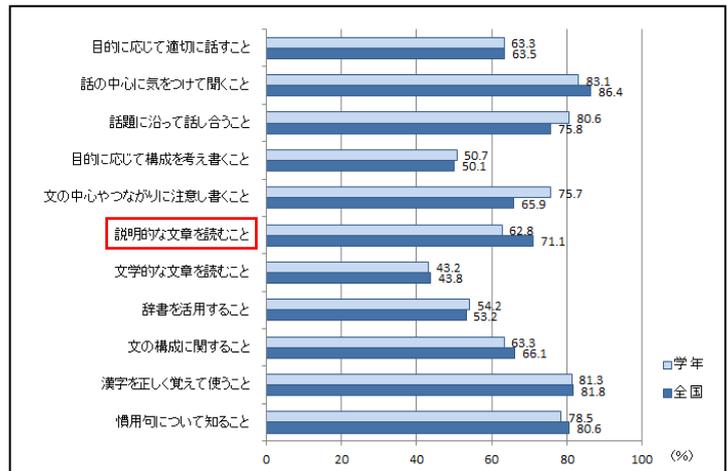


図3 CRT（国語）における本校4年生の各小領域の得点率

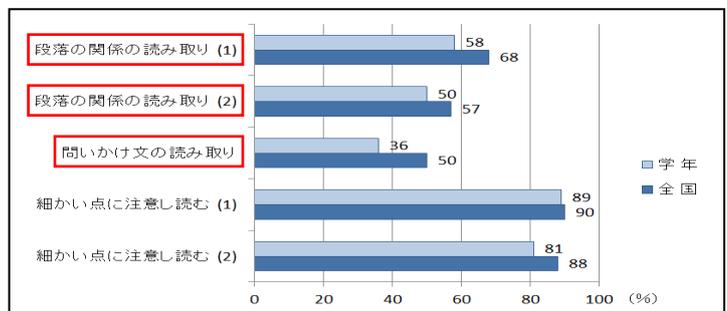


図4 CRT（国語）における本校4年生の説明文の各小問の得点率

### (2) 子どもの実態調査を基にした指導上の課題

図5から、「『初め』『中』『終わり』の文章の組立を考えて文章を読むなど、教科書の説明的文章を読んで学んだことを、その後の書いたり話したりする活動に進んで生かしているか」という問いに対して、「生かしていない」「どちらかといえば生かしていない」と回答する子どもの割合が、学年が上がるごとに増加している。その理由の多くは、「どのように生かしていけばいいのか分からない」「生かすようにしたいけど難しい」といった活用

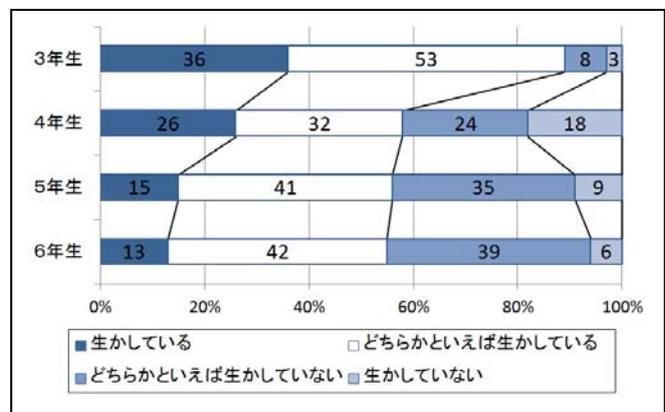


図5 「読むこと」を通して学んだことの活用状況

の仕方に起因するものである。以上の結果から、学年が上がるごとに、説明的文章で学ぶ内容はより高度化し、多くの子どもがこれまでの学習で習得した能力を十分に活用できていないことが分かる。これらの要因として、教師が授業の中で、活用させる場面を十分に設けていなかったことが関係しているのではないかと考えられる。そのため、子どもに活用することの意義について実感をもって理解させる必要がある。また、実際にどのように活用していけばいいのか、具体的な方法をしっかりと明示していなかったことも要因の一つであると考えられる。

### (3) 教師の意識調査の結果を基にした指導上の課題

図6は、教師がふだんの国語の授業において、子どもの主体性を引き出すために行っている工夫について回答した結果（複数回答）を示している。「学習の見通しの明確化」や「子どもの興味・関心に基づく課題づくり」などの工夫がよく行われているのに対し、「相手意識や目的意識を明確にした言語活動の設定」や「課題の解決に即した学習過程の工夫」に十分に組み立てていない。このことから、子どもが自ら進んで読むことの学習に取り組めるよう、子どもの興味・関心に基づく課題づくりと併せて、目的意識や相手意識を明確にした言語活動を単元を通して行い、課題の解決に即した学習過程の工夫に努めることが必要であると考えられる。

さらに、「単元構成の工夫」や「日常生活や他教科等との関連」においても、まだ十分に取組がなされていないことから、日常生活や他教科等との関連を意識した単元を貫く言語活動を位置付け、子どもが単元の第2次で習得した能力を活用しながら、第3次の表現活動に進んで取り組めるような単元構成の工夫に努めることが必要であると考えられる。

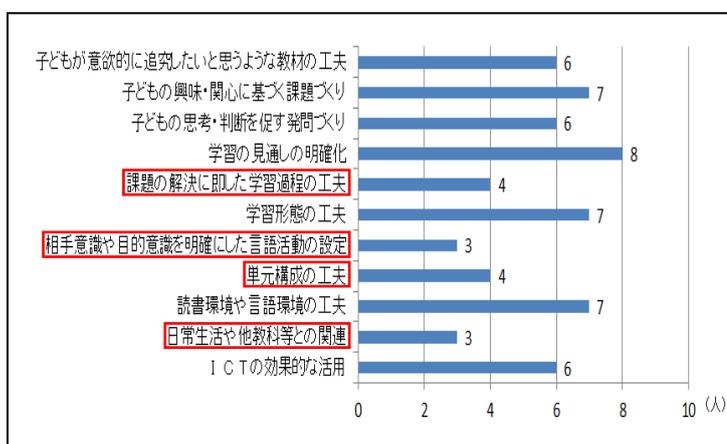


図6 教師が子どもの主体性を引き出すために行っている工夫

### (4) 調査結果等を基に設定した本研究の視点

以上のことから、子どもの主体性を高め、段落相互の関係を捉えるなどの、目的に応じて読む能力を育成するために、日常生活や他教科等との関連を図り、目的意識や相手意識を明確にした言語活動を、単元を貫いて位置付けるようにしたい。具体的には、目的に応じて読む能力を単元ごとに設定し、これらの能力の育成に適した単元を貫く言語活動の種類や特徴などについて明らかにする必要がある。さらに、その上で、単元の第2次で習得した能力を第3次においてどのように活用させるか、その順序や方法を明確にする必要がある。このことを踏まえ、第2次で習得した能力がそのまま第3次の表現活動に直接活用できるような単元構成の工夫などに取り組むようにしたい。そこで、本研究の視点を、次のとおり設定する。

#### 【本研究の視点】

- 1 目的に応じて読む能力を単元ごとに設定し、その順序について整理する。
- 2 目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動を位置付ける際の手がかりとして、その種類や特徴などを明確化する。
- 3 目的に応じて読む能力の習得と活用を図る単元構成を工夫するために、単元を貫く言語活動を位置付けた指導過程を明確化する。
- 4 単元を貫く言語活動を位置付けた学習指導における具体的な手立てを工夫する。

### 3 子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成する国語科授業の構想

#### (1) 目的に応じて読む能力の設定

国語科の授業づくりにおいて第一に考えなければならないことは、当該単元でねらう能力を明確にすることである。また、当該単元でどの指導事項等を取り上げるかに加え、6年間を見据えた指導の系統性を踏まえ、その指導事項等のどこに重点を置き、どのように具体化を図るか、明らかにする必要がある。

目的に応じて読む能力を設定する順序としては、まず、年間指導計画の見通しの中で、当該単元においてどのような能力を身に付けさせたいのか、学習指導要領にある指導事項を焦点化する必要がある。その上で、説明的文章における前単元の子どもの学習実態を、どのような具体的なねらいや言語活動を通して、これまでに身に付いた能力は何で、まだ身に付いていない能力は何かという視点で明確化する必要がある。その際、既習内容についてのレディネステスト等を実施し、子どもの実態を詳細に把握するように努める。最後に、子どもの実態の分析を踏まえ、学習指導要領の指導事項と当該単元における指導のねらいとの関連を明らかにし、当該単元における身に付けさせたい能力を設定する。

表2は、第1学年の「『読むこと』の年間指導一覧表」である。このような各学年でねらう目的に応じて読む能力を、系統的・段階的に身に付けさせることが大切となる。

表2 「読むこと」の年間指導一覧表【第1学年】

第2～6学年については、別添資料に掲載。

「読むこと」の年間指導一覧表【第1学年】											
単元・教材名	指導事項等	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。										
	身に付けさせたい目的に応じて読む能力	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
	言語活動例	ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ウ 事柄の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。									
	単元を貫く言語活動	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

当該単元で重点的に指導するもの

他の単元や教材での指導の重点化に備え、先行して指導するもの

当該単元で補充又は活用させるもの

当該単元で取り扱う言語活動例

(2) 目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動の設定の工夫

単元を貫く言語活動を設定する際に、当該単元の指導のねらいと結び付かない言語活動を選定してしまうと、活動だけがあつて学びがないといった状況に陥りかねない。そこで、授業づくりにおいて必要不可欠となるのが、選定した言語活動が当該単元の指導のねらいを達成するのに適したものであるかどうかをしっかりと見極めることである。言い換えると、指導のねらいを達成するのにふさわしいかどうかを判断するために、その言語活動はどのような種類で、どのような特徴をもつのか明らかにすることである。

例えば、第3学年及び第4学年の「読むこと」の指導事項の中に、「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」(指導事項工)が示されている。この指導事項を基に、第4学年で「ウナギのなぞを追って」を教材として授業づくりを行う場合、自分が最も興味深く感じたところを感想の中心として、目的に応じて文章の引用・要約を行い、「紹介文を書く」言語活動を単元を貫いて位置付けることが適していると考えられる。その理由として、「紹介文を書く」言語活動の特徴は、「書く目的や伝えたい内容、伝える相手をはっきりさせながら、よく分かるように物事を分析して説明する文を書くこと。」であることが挙げられる。そのため、科学読み物を読み、「生き物のなぞブック」を作成するという目的意識を子どもにもたせ、感想の中心に沿った引用や要約を基に、友達に紹介する文章を書く言語活動を位置付けることで、当該単元における指導のねらいを確実に達成できると考える。

なお、単元を貫く言語活動の選定に当たっては、教材の特性や単元の配当時間数、子どものこれまでの学習経験、発達の段階なども十分に考慮しながら、冊子やパンフレット、ポスターなどの表現様式について適切に選び、言語活動に取り入れていく必要がある(図7)。

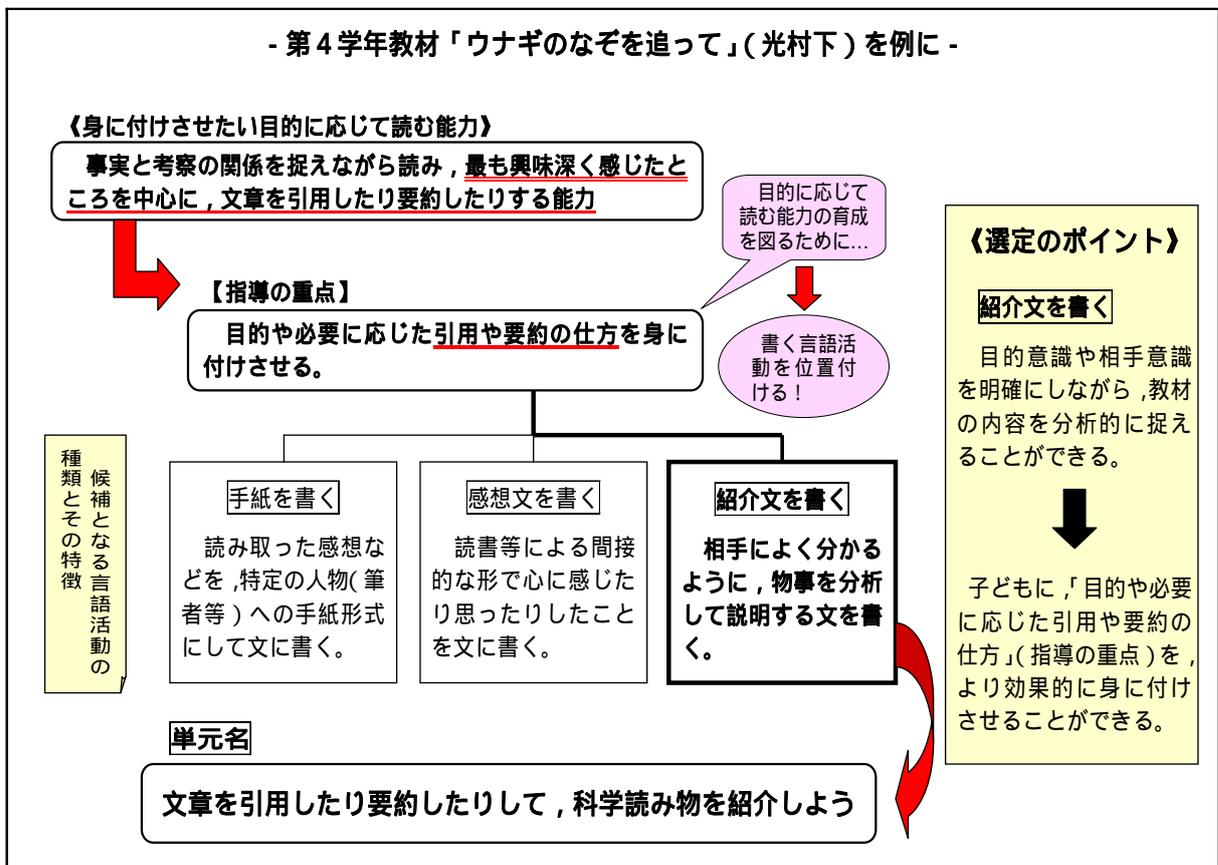


図7 「単元を貫く言語活動」の選定の流れ

表3は、説明的文章の指導における「『単元を貫く言語活動』の種類・特徴等一覧表」である。この表を用いることで、当該単元でねらう能力の育成に適した単元を貫く言語活動の選定がより円滑になると考える。

表3 「単元を貫く言語活動」の種類・特徴等一覧表(No.3)

その他の一覧表については、別添資料に掲載。

「単元を貫く言語活動」の種類・特徴等一覧表【説明的文章の指導に関するもの】		6年間を見通した指導の系統							
言語活動の種類とその特徴	言語活動の目的	「読むこと」の指導事項及び言語活動例との関連	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	
			<b>パネル・ディスカッションを行う</b> 数人のパネリストと呼ばれる人たちが、それぞれの意見を発表し、パネリスト以外の聞き手もパネリストの発言を聞いて、意見や質問を出す。パネリスト同士で討論する話し合いの形態。	議題について、本や文章を読んで考えたことなどを基に、友達と討論する。	<b>【言語活動例】</b> 高・イ(自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること)				
<b>手紙を書く</b> 読み取った感想や自分の意見などを、特定の人物(筆者等)への手紙形式で文章にして表すこと。	文章を読んで考えたり思ったりしたことを、筆者等に伝える文を書く。	<b>【言語活動例】</b> 高・イ(自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること)	・ いちばん書きたいことを選んで書く。	・ 書きたいことを挙げ、順序を考えながら文に表す。	・ 葉書の表の書き方を知り、住所や宛名、自分の住所、名前などを、字の大きさに注意して書く。 ・ 招待状の書き方を知る。	・ 封書の宛名の書き方を知り、住所は右側に、名前は中央に、差出人の住所・名前は裏面にしっかりと書く。 ・ 手紙の書き方を知る。	・ 依頼状や乳状の書き方を知る。	・ 問い合わせの手紙やFAX文書の書き方を知る。	
<b>感想文を書く</b> 直接的な体験や見聞きしたこと、読書等による間接的な形で心に感じたり思ったりしたことを文章に書き表すこと。	読み取った内容等について感じたり思ったりしたことを、文章にして表す。	<b>【言語活動例】</b> 高・イ(自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること)	<b>言語活動を行う目的や、関連する「言語活動例」なども含め、当該単元の指導のねらいに適した単元を貫く言語活動を選定する。</b>			・ 本を讀んで、心に残ったことをメモに表す。 ・ メモを基に、書く中心を明らかにしながら、段落に分かれた文に表す。	・ 本を讀んで、考えたことや想像したことをメモに表す。 ・ メモを基に、書く中心を明らかにし、段落相互の関係を考えながら、文に表す。	・ 心に残ったことと関連した自分の体験などを加え、文に表す。 ・ 文章全体の組立を考え、書き出しと結びを呼応させて書く。	
<b>紹介文を書く</b> 書く目的や伝えたい内容、伝える相手をはっきりさせながら、物事を分析して聞き手によく分かるように説明する文を書くこと。	自分が選んで読んだ本の内容などを、相手に説明する文を書く。	<b>【言語活動例】</b> 低・オ(読んだ本について、好きなところを紹介すること。) 中・エ(紹介したい本を取り上げて説明すること。) 高・イ(自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること)	・ 相手に向けて、知らせたいことが伝わるように文を書く。			・ 自分の伝えたいことがより確かに相手に伝わるように、伝える内容や表現を吟味しながら、組立などを考えて文を書く。	・ 媒体に合わせ、書式を工夫したり小見出しを付けたりするなど、効果的な表現に注意して文を書く。 ・ 相手に応じて、伝える内容や表現を選んで書く。		
<b>推薦文を書く</b> 伝える相手の要求や目的も考慮しながら、本のよさについて説明する文を書くこと。	自分が選んで読んだ本の特徴などを、相手に知らせる文を書く。	<b>【言語活動例】</b> 高・エ(本を讀んで推薦の文章を書くこと)	<b>当該単元の前までに身に付けたこれらの能力を生かし、単元を貫く言語活動に取り組みさせる。</b>			・ 伝える相手とその本を讀む利点を理解できるように、紹介する内容やその順序、文体や文末表現などについて工夫して書く。			

(3) 単元を貫く言語活動を指導過程へ位置付けた単元構成の工夫

学習指導要領における国語科改訂の要点の一つに、「学習過程の明確化」が挙げられる。これは、子どもが自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視したものである。このような能力の育成を図る上で、国語科では、単元の指導過程を各自の課題解決に向けた過程となるようにすることが大切となる。そのため、調べたことをリーフレットにまとめるために必要な情報の取り出し方に着目して教材を読むなどの、目的に応じて読む能力の育成に適した言語活動を、単元を貫いて位置付けることが必要となる。また、このことに併せ、単元における明確な課題意識をもって解決に取り組ませる単元構成の工夫に努める必要があると考える。

単元の構想に当たっては、単元の第2次で習得した能力を第3次においてどのように活用させるか、その順序や方法を明確にすることが大切となる。その上で、第2次で習得した能力がそのまま第3次の表現活動に直接活用できるようにすることが重要な視点となる。このような考えを基に作成した「単元を貫く言語活動を位置付けた単元計画例とポイント」を、次頁図8に示す。

- 第2学年教材「たんぼぼのちえ」(光村上)を例に -

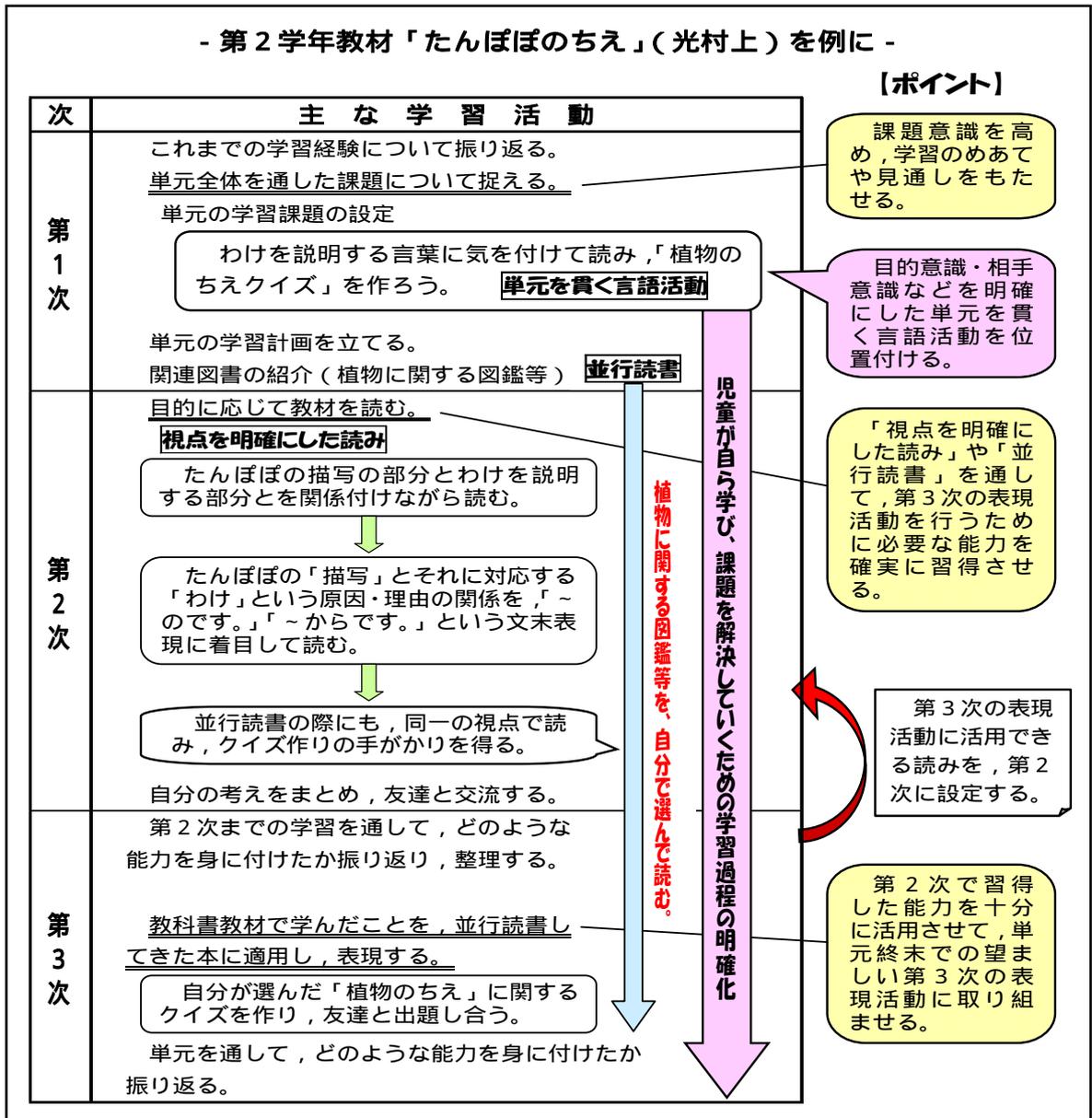


図8 単元を貫く言語活動を位置付けた単元計画例とポイント

図8にもあるとおり、子どもが第3次の表現活動を行うために必要な能力(描写の部分とわけを説明する部分とを関係付けながら読む)を確実に習得できるようにするため、第2次の中に、第3次と直接関連付けた学習を部分的に位置付けることが大切である。つまり、単元の第2次においては、たんぼぼの「描写」とその「わけ」という原因・理由の関係を「～のです。」「～からです。」という文末表現に着目して読むといった、視点を明確にした読みを教科書教材だけでなく、自分が選んだ植物に関する本や文章にも適用させて読む学習に取り組みさせるようにする。このことが、第3次の「わけを説明する言葉に気を付けて読み、『植物のちえクイズ』を作る」という言語活動のスムーズな展開へとつながり、子どもの主体性の高まりや目的に応じて読む能力の確実な定着に結び付くと考える。

このように、通常は第3次に行われる学習を、並行読書(植物に関する図鑑等を、自分で選んで読む。)という形で第2次の中に部分的に取り入れることにより、子どもは主体性を高め、単元でねらう能力を確実に身に付けることができると思う。また、このとき、教科書教材を通して習得した能力を十分に活用させながら、単元終末での望ましい表現活動に取り組みさせるようにしたい。

(4) 子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成する指導法の改善

ア 子どもの読みを深めるための書く活動の工夫

平成16年2月における文化審議会答申の「これからの時代に求められる国語力について」の中には、「『書く』ことは、考えを整理し、考えることそのものの鍛錬にもなる。」「『聞く』『話す』『読む』と『書く』を組み合わせる指導していくという観点も重視すべきである。」と示されている。また、青木幹勇<sup>\*3)</sup>(1986)は、子どもを「読みが確かになり、深くなり、豊かになる」学習に引き込んでいくために、「読むことを支える書く活動」を提唱している。これらのことから、書く活動は、作品(文章)や自分、友達の考えと対話するために必要な行為であり、子どもが目的意識や相手意識を明確にしなが、思考を整理し、振り返ることに役立つ言語活動であると言える。なお、ここで言う「書く活動」とは、表現することを目的として単元を貫いて行われる書く言語活動(「紹介文を書く」など)とは異なり、あくまで、子どもの読みを深めることを主なねらいとして行われる活動と捉える。

以上のことを踏まえ、当該単元でねらう能力を確実に身に付けさせるために、読みを深めるための書く活動をどのような意図や場面で用いるのか、青木の文献等を参考に一覧表に整理し(表4)、その明確化を図った。さらに、この表を基に、国語科の読みの学習において、子どもの読みを深めるための書く活動を積極的に取り入れるよう工夫することが必要であると考える。

表4 「子どもの読みを深めるための書く活動」の分類一覧表

書く活動のねらい	書く活動の種類	書く活動の活用の実際	指導学年					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
文章の叙述に即した読み	書き写す(視写)	文章の内容を理解したり、表現技法を習得したりするために、文や文章をそのまま書き写す。						
	書き抜く	課題解決に関わる文章中の大切な言葉や文を見付け、書き抜く。						
	書き込む	サイドラインを引いたり、書き抜いたりした言葉や文の右側に、自分が読み取ったことや考えたことなどを書き込む。						
	吹き出しに書く	読み取ったことを生かしなが、具体例として挙げられているものの感情等を、吹き出しの中に書き込む。						
	サイドラインを引く	課題解決を図る上で大切な言葉や文の右側に線を引く。						
文章の構造に即した読み	関係図にまとめる	物事の関係性を分かりやすく捉えるために、文章に書かれている内容等を、図を用いてまとめる。						
	要約する	目的や必要に応じて、文章の内容を短くまとめる。						
	変換・再構成する	文章の内容を自分の言葉で言い換えたり、異なる視点から文章全体を捉え直したりする。						
	続きを書く	文章の構造や内容を踏まえ、話が続くように書く。						
文章の全体像を対象とした読み	感想を書く	文章の内容を読み取った後、心に感じたことなどをまとめる。						
	意見(批評)を書く	文章の内容や筆者の論の進め方などに対し、自分の考えをまとめる。						

イ 学習の見通しや振り返りを効果的に行うためのワークシートの工夫・活用

学習指導要領総則の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」には、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」と述べられている。これは、学習の見通しや振り返りによって、能力の自覚化を図り、子どもの主体性を高めることを目的としたものと捉えることができる。国語科においても、学習を見通す過程では、この単元を通してどのような能力を身に付けることができるのか、その解決の方法も含め、単元における毎時間の位置付け

\*3) 青木 幹勇 著『第三の書く 読むために書く 書くために読む』1986 国土社

をしっかりと把握することが大切となる。また、学習を振り返る過程では、単元の終末時に自分にはどのような能力が身に付いたのか、その能力を身に付けるためにどんな方法を用いて、具体的にできるようになったことは何なのか、一人一人に自覚させることが大切であると考え。

そのため、図9に示すように、本単元と次単元との関連を基に、学習を見通す過程においては本単元で身に付ける能力の自覚化を、学習を振り返る過程においては身に付いた能力の自覚化をそれぞれ図ることで、子どもの主体性を高めたいと考え、図10のワークシートの作成を行った。

実際の活用にあたっては、単元の第1時に記入した図10のワークシートと、毎時間の学習で使用ワークシートを照らし合わせて、学習の終末時に課題解決の方法を含む自己評価等を行い、一人一人に学ぶことの喜びや充実感、自らの成長について実感させるようにする。そのことで、身に付けた能力を、実際に日常生活や各教科等の学習においても進んで生かしていけるようにしたいと考える。

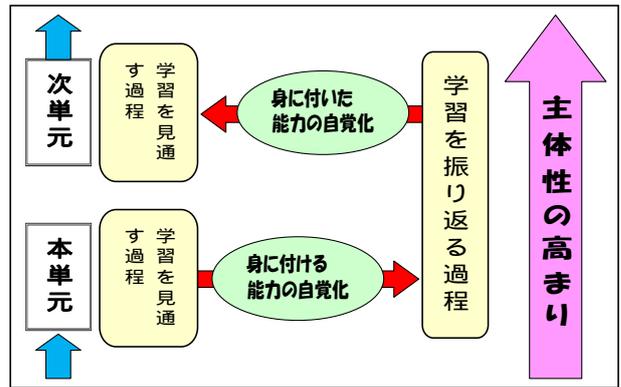


図9 子どもの主体性を高めるための単元間の関連

単元	単元回数	学習活動	学習目標
第3次	10	○「イルカのねむり方」についてふりかえる。	「イルカのねむり方」
	9	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
	8	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
第2次	7	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
	6	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
	5	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
第1次	4	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
	3	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
	2	○「イルカのねむり方」をよみ、友だちと交りあう。	「イルカのねむり方」
第1次	1	○「生き物のふしぎ」について話し合い、単元の学習目標をきめる。	「イルカのねむり方」

図10 学習の見通しや振り返りを効果的に行うためのワークシート例

#### 4 検証授業 の実施と考察

##### (1) 検証授業 の概要

単元名	筆者の考えに対する自分の意見をまとめ、投こうしよう (教材名「見立てる」「生き物は円柱形」光村5年)
実施学年	霧島市立日当山小学校 第5学年2組 男子18人 女子19人 計37人
実施時期	平成24年7月2日～6日

(2) 検証授業 のねらい

- ア 本単元でねらう能力に適した単元を貫く言語活動の設定の仕方について検証する。  
 イ 単元を貫く言語活動を指導過程へ位置付けた単元構成の工夫について検証する。  
 ウ 子どもの読みを深めるための書く活動の工夫について検証する。

(3) 検証授業 における単元を貫く言語活動の設定の仕方

- 第5学年教材「見立てる」「生き物は円柱形」(光村)において -

1 本単元で指導する指導事項の焦点化

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。【読(1)ウ】  
 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。【読(1)オ】

2 子どもの学習実態の明確化

【第4学年までの説明文の学習内容に関する問題の達成度】 問題は教師自作による。

・ 指示語の理解 (67%)	・ 接続語の理解 (87%)	・ 段落相互の関係の把握 (66%)
・ 文章全体の構成の把握 (43%)	・ 中心となる語や文の把握 (43%)	・ 事実と意見との関係の把握 (40%)
・ 文章全体の要約 (29%)	・ 筆者の考えや文章の書き方に対する自分の考えの記述 (文章の引用 43%)	

3 指導事項と本単元における指導のねらいとの関連の明確化

《本単元における指導のねらい》 単元の指導目標  
 文章の要旨や筆者の意図を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。【読(1)ウ】  
 筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、友達との意見の交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読(1)オ】

4 本単元でねらう能力の設定

《本単元でねらう能力》  
 文章の要旨を捉える。 筆者の主張に対し自分の考えをまとめる。

5 目的に応じて読む能力の育成に適した言語活動の選定

「投稿文を書く」... 新聞への投稿を目的として、ある出来事やテーマ、身近な問題などについて、感じたり考えたりしたことを文章に書き表す言語活動

単元の指導目標

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。【読(1)ウ】  
 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。【読(1)オ】

《単元の評価規準》

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
文章の組立を考え、筆者の考えや論の進め方について自分なりの考えをもとうとしている。	文章の構成をつかみ、事実と感想、意見を押さえながら要旨について捉え、筆者が何を伝えたいのか読み取っている。【読(1)ウ】 文章を引用したり要約したりして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、友達と意見を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。【読(1)オ】	語句と語句との関係に気を付けて、筆者の論の進め方を読み取っている。【伝国(1)イ(オ)】

図11 本単元でねらう能力の育成に適した単元を貫く言語活動の設定の仕方

本単元で身に付けさせたい能力の設定を図り、その上で、その育成に適した言語活動を選定するという前頁図11の流れに沿って、単元を貫く言語活動の設定を行った。まず、年間指導計画を基に6年間を見通した指導の系統性を踏まえ、本単元で指導する指導事項の焦点化を図った。次に、単元実施前に教師自作による問題（図12）を解かせ、説明的文章における前単元の子どもの学習実態を正確に把握するように努めた。（レディネステストの結果は、前頁図11に掲載。）そして、子どもの実態の分析を基に指導事項と本単元のねらいとの関連を明らかにし、単元の指導目標や評価規準を具体化するともに、本単元でねらう能力（文章の要旨を捉える。筆者の主張に対し自分の考えをまとめる。）の設定を行った。最後に、単元で身に付けさせたい能力の育成に適した言語活動として「投稿文を書く」言語活動を選定し、単元を貫いてその位置付けを図った。（新聞に掲載された小学生の投書に対し自分の考えを投稿文としてまとめることが、目的意識や相手意識などを一貫させながら、投書で述べられている内容の中心を捉え、投稿者の主張に対し自分の考えをまとめる能力の確実な定着につながると考え、「投稿文を書く」言語活動を設定した。）

① この文章の内容を、大きく二つのまとまりに分けよう。左の表の中へ、当てはまる段落の番号を書き入れなさい。  
【文章の構造】

文章の組み立て		段落の番号
初め	中	
終わり		

② 第3段落で書かれている内容で、中心となる語は何でしょうか。一字で書きまなさい。  
【中心となる語を捉えよう】

③ この文章の中で、筆者の思いや願いが強く表れている一文を書きまなさい。  
【事実と意見との関係】

図12 教師自作のレディネステスト（一部抜粋）

筆者の主張に対し自分の考えをまとめる。）の設定を行った。最後に、単元で身に付けさせたい能力の育成に適した言語活動として「投稿文を書く」言語活動を選定し、単元を貫いてその位置付けを図った。（新聞に掲載された小学生の投書に対し自分の考えを投稿文としてまとめることが、目的意識や相手意識などを一貫させながら、投書で述べられている内容の中心を捉え、投稿者の主張に対し自分の考えをまとめる能力の確実な定着につながると考え、「投稿文を書く」言語活動を設定した。）

指導の実際に当たっては、レディネステストの結果において、特に達成度の低かった文章の引用や要約等について取り上げ、筆者の主張に対する自分の考えをまとめさせるようにした。また、「投稿文を書く」言語活動により、子どもが進んで読みの学習に取り組み、自分のまとめた意見を社会に対し広く発信していくことで、ものの見方や考え方を深められるようにした。

#### (4) 検証授業 の実際

##### ア 単元を貫く言語活動を指導過程へ位置付けた単元構成の工夫

(3)で設定した単元を貫く言語活動の位置付けを図り、次のような単元構成の工夫を行った。

本単元では、筆者の考えに対する自分の意見をまとめ、投稿するために、必要となる意見の効果的な述べ方などに着目して教材を読むなどの、目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動の位置付けを行った。

具体的に、単元の第1次では、読んだことが、第3次の表現活動に生きるような学習課題（「筆者の考えに対する自分の意見をまとめ、投こうしよう」）を設定することで、子ども一人一人に、読む目的をはっきりと意識させるようにした。特に、投稿することの意義や価値などについて十分に理解させるとともに、投稿するために自分の意見をどのようにまとめるか、筆者の意見の述べ方などに着目して教材を読むという課題意識を明確にもたせるようにした。

単元の第2次では、第3次での投稿文の作成において必要となる能力（「始まり」「中」「まとめ」の三段落構成で文章を書くなど）を確実に身に付けることができるように、読み手を納得させる文章の書き方等に注目させて筆者の主張を捉えさせるなど、視点を明確にした読みを行わせるようにした。また、第3次での表現活動に備え、過去に新聞に掲載された小学生の投稿文を並行して読み、要旨を捉えさせるとともに、投稿文の書き方で参考にしたい箇所に付箋を貼らせたり、メモを書かせたりするなどして、投稿文を書くための材料を少しずつ書きためさせておくようにした。

単元の第3次では、第2次の学習で習得した能力を活用して、自分が選択した投稿文について要旨を捉え、投稿者の主張に対する自分の意見をまとめ、新聞社へ投稿させるようにした。

それによって、学習したことが、実生活によりよく生かされることを実感させ、学ぶことの喜びや充実感を味わわせるようにした。

## 【検証授業 における学習の流れ(全7時間)】

### 子どもの学習の様子

過程 【次】	時	主な学習活動
つかむ・見通す 【第1次】	1	1 4年生で学習した説明的文章の主な内容や学び方などについて話し合う。 2 新聞の投稿欄を読み、そこから本単元における学習課題を設定する。 筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、新聞社に投こうしよう。 単元を貫く言語活動 筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、投稿する。 3 単元の学習計画を立てる。
調べる・深める 【第2次】	1	4 「見立てる」を読み、筆者の主張について読み取る。( 視点を明確にして読む。) ・ 文章全体の構成をつかむ。 ・ 事例の挙げ方を基に、筆者の意見の述べ方について話し合う。 ・ 文章の要旨をまとめる。( 「生活」「自然」「想像力」「見立てる」のキーワードの書き出し。) 小学生の投稿文を並行して読む。 児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程の明確化
	4	5 「生き物は円柱形」を読み、筆者の主張について読み取る。( 視点を明確にして読む。) ・ 文章全体の構成をつかむ。 ・ 筆者の論の進め方について考える。 ・ 文章の要旨をまとめる。( 「生き物」「多様」「共通性」「円柱形」のキーワードの書き出し。) 6 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 7 まとめた考えを友達と交流し、感想を述べ合う。
振り返る・生かす 【第3次】	1	8 前時までの学習を通して、どのような能力を身に付けたか振り返る。 9 自分が選択した投稿文について要旨を捉え、投稿者の主張に対する自分の考えをまとめる。 10 自分がまとめた投稿文を友達と交流し、助言し合う。 11 単元を通して、どのような読む能力を身に付けたか振り返る。
課外		12 投稿文を推敲し、清書する。 13 封筒に宛先等を記入し、新聞社へ発送する。

「投稿文を書くために読む」という読む目的をはっきりと自覚しながら、進んで学習に取り組む子どもの姿が多く見られた。

自分が投稿文を書く際の手掛かりを得るといった目的に応じて教科書教材等を読み、その結果、約8割の子どもが文章の要旨を捉え、自分の考えをまとめることができた。

第2次で習得した要旨を捉え、筆者の主張に対し自分の考えをまとめる能力を活用して、多くの子どもが投稿文を書く言語活動に進んで取り組んでいた。

### イ 子どもの読みを深めるための書く活動の工夫

本単元でねらう能力を確実に身に付けさせるために、文章の要旨をまとめたり筆者の主張に対する自分の考えをまとめたりする、読みを深めるための書く活動を、単元の第2次と第3次でそれぞれ工夫して行った。具体的に、第2次では、筆者がこの文章を通して最も伝えたい内容について読み取り、それに対し自分は賛成か反対か立場を明らかにしながら考えをまとめさせるようにした。その結果、文章の要旨については、約8割の子どもが「要旨のまとめ方」の手引等を参考に、文末表現などに着目しながら筆者の主張が書かれている段落を見付け出し、



筆者の主張に対する自己の考えの記述

考えの根拠となる具体例（自分がこれまでに見聞きした経験）による説明

筆者が伝えたいこと（中心・要旨）の把握

文章の要約

三段落の構成や双括型による効果的な意見の述べ方

南日本新聞に掲載された子どもの投稿文

まとめ 中 始まり

図16 筆者（投稿者）の主張に対する自己の考えの形成【新聞の投稿】

だれにでもやさしく  
 日当山小五年 沙袋  
 6月10日の「若い目こ  
 けい」を読んだ。さん  
 （少の投稿を読んで、  
 その考えにとても共感しま  
 した。特に、「一人にいら  
 とをみる」と、やっぱり気  
 持ちはいいな」という  
 考えに、わたしはさん成  
 すなはならわたしにあ  
 さんと同じような経験  
 があるからです。  
 （一部抜粋）

(5) 検証授業の成果と課題

ア 成果

(ア) 本単元でねらう能力の育成に適した「投稿文を書く」言語活動を設定したことで、文章の要旨を捉える能力については本学級の約8割の子どもが、筆者の主張に対し自分の考えをまとめる能力については8～9割の子どもが、それぞれに定着を図ることができた（表5）。

調査に当たって、文章の要旨を捉える能力については、授業前・授業後のテストの結果によって達成度を評価した。また、筆者の主張に対し自分の考えをまとめる能力については、単元の第2次における教科書教材や第3次における新聞の投稿文を対象に子どもが考え、まとめた内容を基に評価した。

(イ) 単元の第2次の中に、第3次と直接関連付けた学習（小学生の投稿文を並行して読む。）を位置付けた。このことにより、図17のアンケートの結果から、本学級の9割以上の子どもが、学習の見通しをしっかりともち、意欲を持続させながら、自ら進んで読みの学習に取り組むことができた。

表5 本単元でねらう能力の達成度

《文章の要旨を捉える能力》		
項目	検証授業前	検証授業後
① 事実と感想、意見などとの関係を押さえて、筆者の言いたいことが書かれている段落を捉える。	40%	82%
② 中心となるキーワードを押さえる。	43%	78%

《筆者の主張に対し自分の考えをまとめる能力》		
項目	教科書教材を対象に	新聞の投稿文を対象に
① 文章の構成（「始まり」「中」「まとめ」の3つのまとまり）を意識してまとめる。	100%	86%
② 文章の引用や要約、自分の経験を具体例として挙げる。	引用 → 91%	引用 → 54%
	要約 → 27%	要約 → 14%
	経験 → 45%	経験 → 59%
③ 具体例を根拠として、自分の考えを述べる。	77%	79%

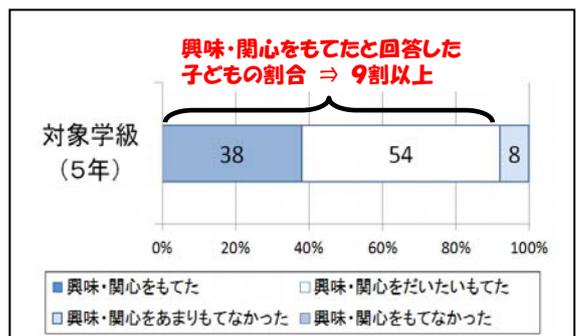


図17 「投稿文を書く」言語活動への興味・関心の度合い

(ウ) 手引等を参考に文章の要旨をまとめたり，筆者の主張に対し自分の考えをまとめたりする，読みを深めるための書く活動の工夫によって，多くの子どもが目的意識や相手意識をはっきりともちながら，進んで読みの学習に取り組むとともに，本単元でねらう能力をしっかりと身に付けることができた。

#### イ 課題

(ア) 前頁表5より，単元の第2次で習得した能力を，第3次の新聞の投書において十分に活用させ，筆者の主張に対する自分の考えをまとめることのできない子どもが1～2割見られることから，単元の第2次と第3次との十分な関連を図り，習得した能力の活用を促す単元構成の更なる工夫に努める必要がある。

(イ) 同じく表5より，本学級の約2割の子どもに目的に応じて読む能力が十分に身に付いていないことが分かる。このことから，本単元で，子どもに教える内容の更なる精選を行い，具体的にポイントを絞って指導する必要がある。

#### (6) 検証授業 の課題を踏まえた指導法の改善

上記に示された課題を踏まえ，(ア)では，単元の第2次で習得した能力の活用の仕方を具体的に提示する，単元構成の工夫に取り組むようにしたい。また，学習の見通しをはっきりとさせ，どのような方法を用いて解決を図っていくのかなど，課題解決に向けた意識をより高めていくことも大切となる。これに加え，毎時間の学習を通して，自分にはどのような能力が身に付いたか振り返らせることも大切となる。そのため，このようなねらいを達成するためのワークシートの工夫・活用に取り組むようにしたい。

(イ)では，子どもの実態や単元の指導時数等との関連を十分に考慮しながら，本単元でねらう能力の育成を踏まえ，子どもに教える内容の精選を図り，その内容に応じた指導に取り組むことが必要となる。その際，本単元でねらう能力を身に付けた子どもの姿を具体的にイメージし，その達成に向けてより効果的に指導を行うためのワークシートの工夫・活用に取り組むようにしたい。

以上のことから，検証授業 においては，特に，子どもが学習の見通しや振り返りを効果的に行ったり，教師がねらいを明確にして指導したりすることを目的としたワークシートの工夫・活用や，習得した能力の活用を促す単元構成の工夫などについて検証を行っていく。

## 5 検証授業 の実施と考察

### (1) 検証授業 の概要

単元名	筆者の説明のしかたについて考えたことをまとめ，発表しよう (教材名「天気を予想する」光村5年)
実施学年	霧島市立日当山小学校 第5学年2組 男子18人 女子19人 計37人
実施時期	平成24年10月22日～25日

### (2) 検証授業 のねらい

ア	本単元でねらう能力に適した単元を貫く言語活動の設定の仕方について検証する。
イ	単元を貫く言語活動を指導過程へ位置付けた単元構成の工夫について検証する。 (習得した能力の活用を促す単元構成の在り方について検証する。)
ウ	子どもが学習の見通しや振り返りを効果的に行ったり，教師がねらいを明確にして指導したりするためのワークシートの工夫・活用について検証する。

(3) 検証授業 における単元を貫く言語活動の設定の仕方

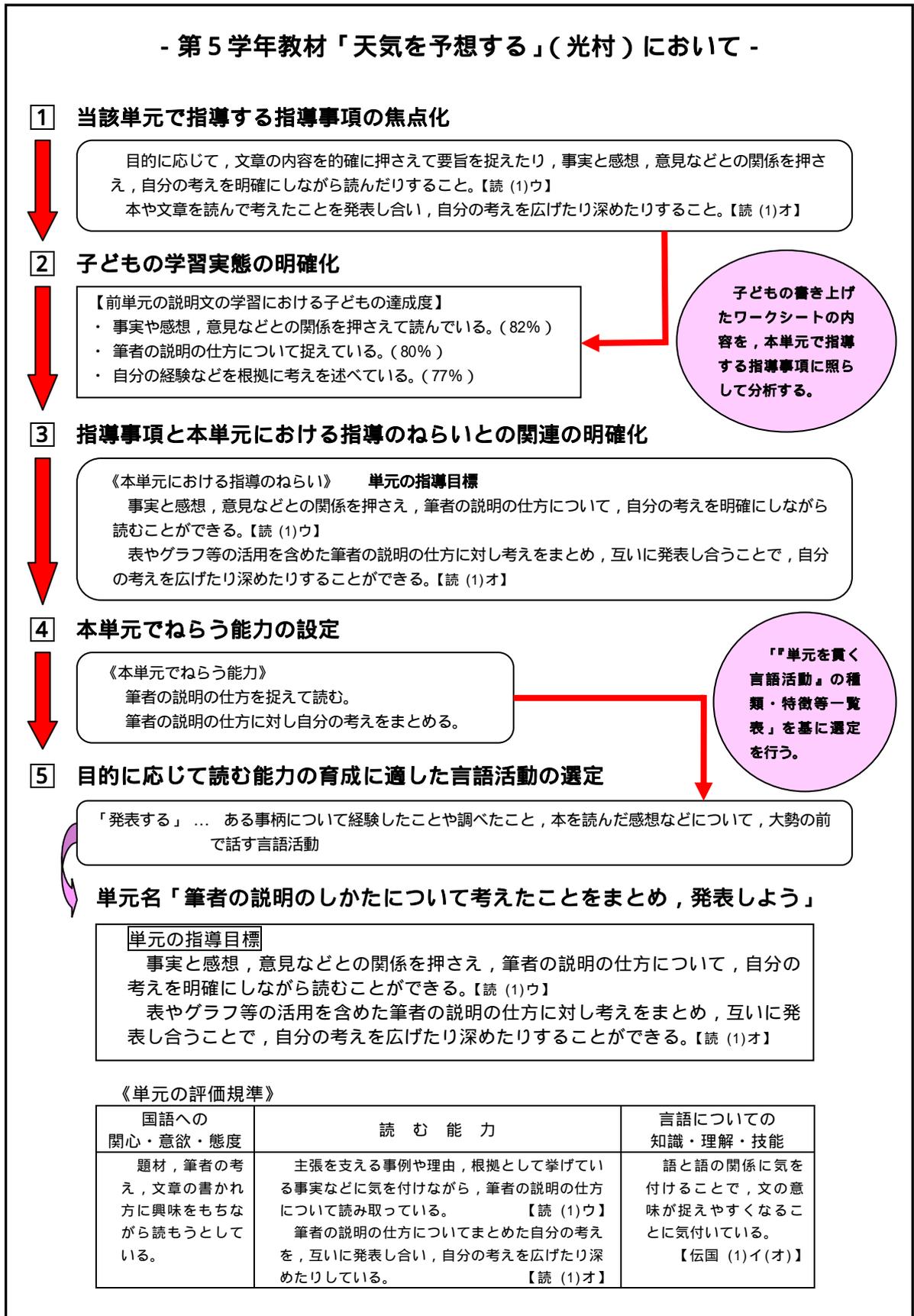


図18 本単元でねらう能力の育成に適した単元を貫く言語活動の設定の仕方

本単元で身に付けさせたい能力の設定を図り、その育成に適した言語活動を選定するという前頁図18の流れに沿って、単元を貫く言語活動の設定を行った。まず、年間指導計画を基に本単元で指導する指導事項の焦点化を図り、その上で、前単元の説明文の学習（「筆者の考えに対する自分の意見をまとめ、投こうしよう」）で書き上げたワークシートの内容を、本単元の指導事項に照らして細かく分析し、子どもの学習実態を正確に把握するように努めた。そして、これらの実態の分析を基に指導事項と本単元のねらいとの関連を明らかにし、単元の指導目標や評価規準を具体化するとともに、本単元でねらう能力（筆者の説明の仕方を捉えて読む。筆者の説明の仕方に対し自分の考えをまとめる。）の設定を行った。最後に、単元で身に付けさせたい能力の育成に適した言語活動として「発表する」言語活動を選定し、単元を貫いてその位置付けを図った。（表やグラフ等の活用を含めた筆者の説明の仕方について自分の考えをまとめ、友達と発表し合うことが、筆者の説明の仕方に対する新たな発見を促し、考えをより深めさせることへとつながり、それによって身に付けた能力は、他教科等での学びや日常生活にも十分に生かすことができると考え、「発表する」言語活動を設定した。）

指導の実際に当たっては、「発表する」言語活動を通して得られる能力は、この後の総合的な学習の時間に直接生かすことができるなど、その意義や価値について十分に理解させることで、子どもの課題意識を高めるようにした。

#### (4) 検証授業 の実際

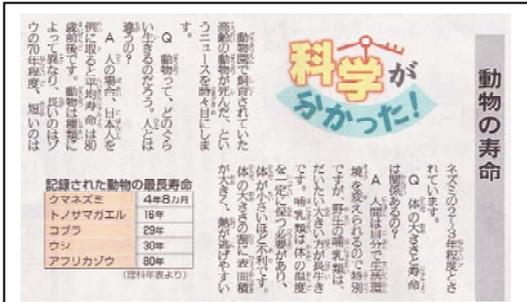
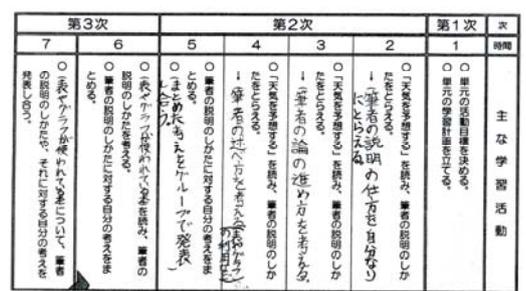
##### ア 単元の指導計画（全7時間）

過程【次】	時	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ・見通す【第1次】	1	1 1学期に学習した説明的文章の内容や身に付けた読む能力について話し合う。 2 表やグラフ等が使われている本や文章を読み、そこから本単元における学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>筆者の説明のしかたについて考えたことをまとめ、発表しよう。</b> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>単元を貫く言語活動</b> </div> 3 単元の学習計画を立てる。	これまでに学習した内容や、身に付けた読む能力などについて十分に振り返らせ、本単元の学習への関連付けを図る。 どのような課題をもって学習を進めていけばよいのか一人一人に考えさせ、そこから本単元における学習課題を導き出させるようにする。 読んだことが、第3次の表現活動や総合的な学習の時間に行う調べ学習の発表などにも生きてくることを伝えることで、読みに対する必要感を強く意識させる。
調べる【第2次】	3	4 「天気を予想する」を読み、筆者の説明の仕方について捉える。（視点明確にした読み） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>表やグラフ等が載った本の並行読書</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の説明の工夫を自分なりに見付ける。</li> <li>・ 筆者の論の進め方を考える。</li> <li>・ 筆者が表やグラフを用いた意図を考える。</li> <li>・ 文中に数値が用いられることよさを考える。</li> </ul>	第3次の表現活動にスムーズに入れるように、表やグラフ等が載った本の並行読書を通して、筆者の説明の仕方やそれらを用いた意図について捉えさせるとともに、筆者の説明の仕方に対する自分の考えを少しずつまとめさせるようにする。 第3次での表現活動を意識した、視点明確にした読みを行わせる。 子どもが自ら進んで学習に取り組めるように、まずは、それぞれの視点で筆者の説明の工夫について捉えさせる。 三つの問いと答えが関連した文章構成となっていることに気付かせる。 表やグラフがあるときとないときを比較させ、筆者が理由を裏付けるための表やグラフをどのような意図で用いたか考えさせる。 数値があるときとないときを比較させ、文中に数値が用いられることよさを考えさせる。

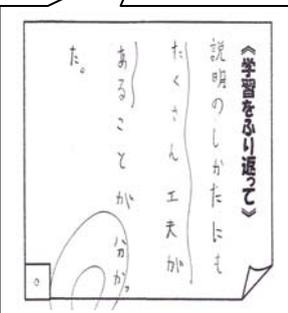
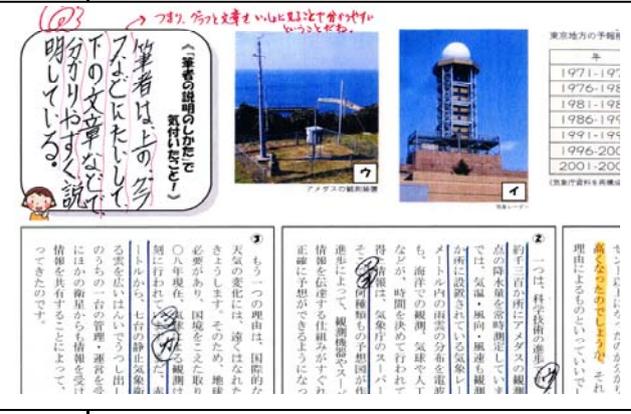
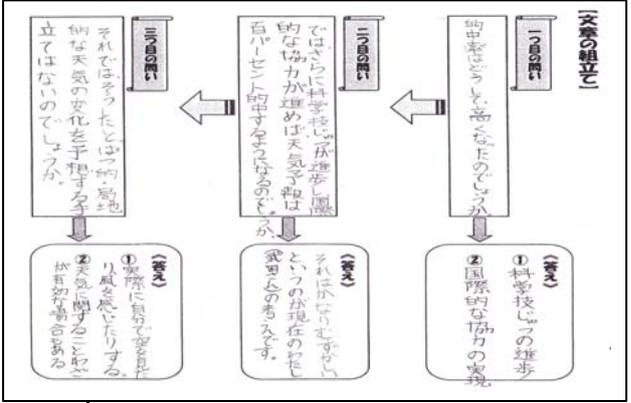
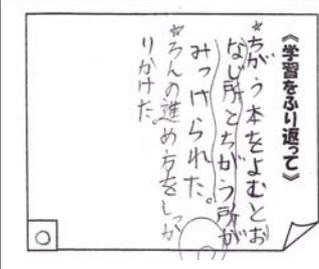
深める【第2次】	1	<p>5 筆者の説明の仕方について自分の考えをまとめ、互いに発表し合う。</p> <p style="text-align: center;"><b>表やグラフ等が載った本の並行読書</b></p>	<p>筆者の説明の仕方に対する自分の考えを、根拠を明らかにしてまとめさせる。</p> <p>考えをまとめる際には、筆者の説明の仕方について、そのよさ（表やグラフ等を活用することのよさなど）を捉え、整理してまとめさせる。</p> <p>グループ内での交流を通して、筆者の説明の仕方に対する自分の考えを広げたり深めたりさせる。</p>
振り返る・生かす【第3次】	2	<p>6 前時までの学習を通して、どのような読む能力を身に付けたか振り返る。</p> <p>7 表やグラフ等が掲載された本を読み、筆者の説明の仕方について自分の考えをまとめ、互いに発表し合う。</p> <p>8 本単元の学習について振り返る。</p> <p style="text-align: center;"><b>単元を貫く言語活動</b></p>	<p>これまでの学習でどのような読む能力を身に付けたか振り返り、整理させる。</p> <p>第2次の学習で学んだ表やグラフ等を用いた効果的な説明の仕方や、それに対する自分の考えなどについて、対応する箇所を指し示しながら分かりやすく発表させる。</p> <p>グループによる交流を通して、友達の見方・考え方に広く触れさせることで、筆者の説明の仕方が効果的になされていることを再確認させ、これらのよさを、他教科等での学びや日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲を高めさせる。</p> <p>単元を通して、どのような読む能力を身に付けたか振り返らせる。</p>

イ 指導内容の重点化を図り、習得した能力の活用を促す単元構成の工夫

(ア) 単元の第1次（つかむ・見通す過程）における単元構成の工夫

時	単元構成の工夫	主な学習活動 (吹き出し 子どもの学習の様子)	主な教師の手立て
1 / 7	<p>読んだことが、第3次の表現活動や総合的な学習の時間に行う調べ学習の発表に生きるような学習課題を設定することで、読む目的を明確に意識させるとともに、課題意識を高め、学習のめあてや見通しをしっかりとめさせるようにした。</p>	<p>1 1学期に学習した説明的文章の内容や身に付けた読む能力について話し合う。</p> <p style="text-align: center;"><b>教科書教材や自分の書いた投稿文を基に、前単元の学習で具体的にどのような能力を身に付けたか振り返り、整理することができた。</b></p> <p>2 表やグラフ等が使われている文章を読み、そこから本単元における学習課題を設定する。</p> <p style="text-align: center;"><b>筆者の説明のしかたについて考えたことをまとめ、発表しよう。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>表やグラフを含む教材を読む際に、それらを使用する筆者の意図や効果的な説明の仕方に着目して読んでいこうとする意欲の高まりが見られた。</b></p> <p>3 単元の学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の「筆者の考えに対する自分の意見をまとめ、投こうしよう」の学習でどのような読む能力を身に付けたのか、子どもが実際に書いた投稿文などを基に振り返らせるようにした。</li> <li>表やグラフ等が使われている新聞記事の切り抜きを用意し、それらを用いることのよさに着目させ、本単元における学習課題を導き出すようにした。</li> </ul>
 <p>図19 表やグラフ等が載った新聞記事の切り抜きの一部</p>			
 <p>図20 各自が作成した単元の学習計画表</p>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフ等の活用を含めた筆者の説明の仕方について自分の考えをまとめ、発表する言語活動を通して得られる能力は、この後の総合的な学習の時間（「自分の身の回りの問題について調べ、まとめたことを発表する」）に直接生かすことができるなど、その意義や価値について十分に理解させるようにした。</li> <li>本単元のねらいを達成するために必要な能力や、それに対応した学習内容について全体で話し合いを行うことにより、各自が単元を通した見通しを明確にもって学習を進めていけるようにした。</li> </ul>

(1) 単元の第2次（調べる・深める過程）における単元構成の工夫

時	単元構成の工夫	主な学習活動 (吹き出し 子どもの学習の様子)	主な教師の手立て
2 / 7	<p>筆者の説明の工夫に着目した読みを行うことで、第3次の表現活動を行うのに必要となる能力を確実に習得させるようにした。</p> <p>また、第2次で習得した能力を第3次においてもそのまま活用できるように、教科書以外の教材を同一の視点で読む並行読書に取り組ませた。</p>	<p>1 「天気予報」を読み、筆者の説明の工夫を自分なりに見付ける。(視点を明確にした読み)</p>  <p>図21 学習後の子どもの感想</p>	<p>・ 子どもが自ら進んで学習に取り組めるように、まずは、それぞれの視点で筆者の説明の工夫を自由に捉えさせた。</p>  <p>図22 書き込みをさせるためのワークシート</p>
3 / 7	<p>筆者の論の進め方に着目した読みを行うことで、第3次の表現活動を行うのに必要となる能力を確実に習得させるようにした。</p> <p>また、第2次で習得した能力を第3次においてもそのまま活用できるように、教科書以外の教材を同一の視点で読む並行読書に取り組ませた。</p>	<p>3 「天気予報」を読み、筆者の論の進め方を考える。(視点を明確にした読み)</p> <p>筆者が問いと答えを繰り返しながら説明を進めることで、読み手の思考の流れに沿いながら、次第に自分の主張へと近付ける工夫(論の進め方)をしていることに、多くの子どもが気付く姿が見られた。</p> <p>4 読み取った筆者の論の進め方について、友達と交流する。 表やグラフ等が載った本を並行して読む。</p>  <p>図23 文章構成を捉えさせるワークシート</p>	<p>・ 「～か。」という文末表現や接続語、文頭の言葉に着目させ、三つの問いと答えが関連した構成となっていることに気付かせるようにした。</p> <p>・ 友達との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりさせた。</p> <p>・ 筆者の論の進め方等で気付いたことを付箋に記入させながら、並行して読ませるようにした。</p>  <p>図24 学習後の子どもの感想</p>  <p>図25 付箋の活用による並行読書</p>

筆者の効果的な説明の仕方に着目した読みを行うことで、第3次の表現活動を行うのに必要となる能力を確実に習得させるようにした。

また、第2次で習得した能力を第3次においてもそのまま活用できるように、教科書以外の教材を同一の視点で読む並行読書に取り組みさせた。

5 「天気を予想する」を読み、筆者の効果的な説明の仕方を考える。  
(視点明確にした読み)

文章の内容と照らして、表やグラフから情報を読み取ることで、筆者の伝えたい内容がはっきり分かるというよさや、数値を用いた文章により、内容が具体的に分かるというよさなどに気付くことができた。

6 読み取った筆者の効果的な説明の仕方について、友達と交流する。

筆者が文立草をどのように工夫し、より分かりやすくしようとしたのか、

図26 学習後の子どもの感想

表やグラフ等が載った本を並行して読む。

表やグラフがあるときとないときを比較させ、筆者が理由を裏付けるための表やグラフをどのような意図で用いたかを考えさせるようにした。また、その中で、文中で数値を用いることのよさについて捉えさせるようにした。



写真 表やグラフと文章との対応の確認

友達との共通点や相違点を記入した付箋を基に、交流に取り組みさせた。

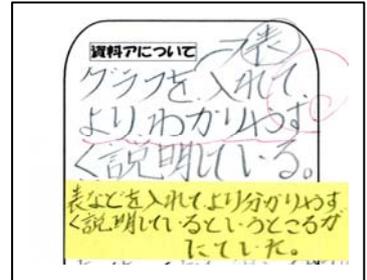


図27 付箋の活用による相互交流

第3次での表現活動に備え、表やグラフ等が載った本を、筆者の効果的な説明の仕方等に着目しながら並行して読ませるようにした。

筆者の説明の仕方に対し自分の考えをまとめ、発表する言語活動により、第3次の表現活動を行うのに必要となる能力を確実に習得させるようにした。

また、第2次で習得した能力を第3次においてもそのまま活用できるように、教科書以外の教材を同一の視点で読む並行読書に取り組みさせた。

7 「天気を予想する」を読み、筆者の説明の仕方に対する自分の考えをまとめる。

呼べたしは、武田さんの説明の仕方について、次のように考えます。

①(表やグラフが載った本)の構成 (1)5/17  
②(筆者が読者に何と伝えたいか)がわかります。  
③(同じ)5/17  
④(筆者が伝えたいこと)が(1)5/17(よさ)がわかります。  
⑤(表やグラフが載った本)が(1)5/17(よさ)がわかります。  
⑥(接続語や文頭の言葉) (1)5/17  
⑦(文や段落ごとのつながり)が(1)5/17(よさ)がわかります。  
次に、武田さんの説明の仕方について、

①(表やグラフの利用) (1)5/17  
②(読者が目にしたこと)が(1)5/17(よさ)がわかります。  
③(数値を用いた文章) (1)5/17  
④(読者が何年のグラフや表を見よ)が(1)5/17(よさ)がわかります。  
⑤(筆者が何を伝えたいか)が(1)5/17(よさ)がわかります。

図28 子どもがまとめた筆者の説明の仕方【ワークシート】

8 まとめた考えを、グループで発表し合う。

武田さんの説明の仕方について、より分かりやすくしようとしたのか、

図30 学習後の子どもの感想

表やグラフ等が載った本を並行して読む。

筆者の説明の仕方について、表やグラフ等を活用することのよさなどをつかみ、ワークシートに整理し、まとめさせるようにした。(考えをまとめる際には、これまでの学習で書き留めてきたメモを基に整理し、まとめさせた。)

述ベ方	語の進め方	筆者の説明の仕方について整理しよう！
⑤ 数値を用いた文章	① 要旨がわかりやすく構成	
④ 表やグラフの利用	② 明いと読みやすい	
	③ 接続語や文頭の言葉	

図29 筆者の説明の仕方に関するメモ

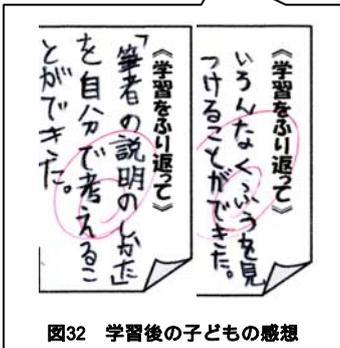
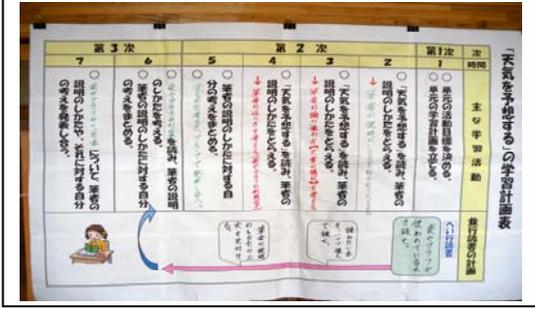
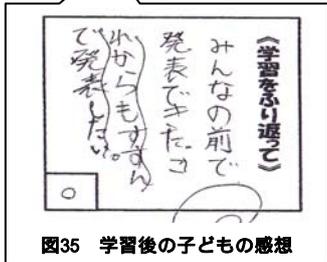
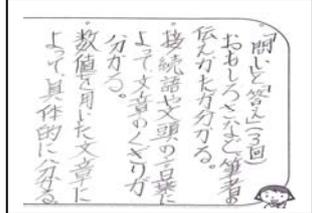
話型を基に互いの考えを発表し合い、友達の見方や考え方に広く触れさせることで、筆者の説明の仕方が効果的になされていることを確実に捉えさせるようにした。



写真 話型の活用による相互交流

第3次での表現活動に備え、表やグラフ等が載った本を、筆者の効果的な説明の仕方等に着目しながら並行して読ませるようにした。

(ウ) 単元の第3次（振り返る・生かす過程）における単元構成の工夫

時	単元構成の工夫	主な学習活動 (吹き出し 子どもの学習の様子)	主な教師の手立て
6 / 7	<p>学習を通して身に付けたことを、日常生活や各教科等の学習においても進んで生かしていけるように、第2次で習得した能力を十分に活用させて、単元終末での望ましい表現活動に取り組みさせるようにした。</p>	<p>1 前時までの学習を通して、どのような読む能力を身に付けたか振り返る。</p> <p>「天気予想する」の学習を通して、表やグラフの活用など、筆者の説明の仕方を捉えて読んだり、筆者の説明の仕方に対し自分の考えをまとめたりする能力を高めてきていることを一人一人が実感することができた。</p> <p>2 表やグラフ等が掲載された本を読み、筆者の説明の仕方と、そのよさについて自分の考えをまとめる。</p>   <p>図32 学習後の子どもの感想</p>	<p>学習計画表を基に、教科書教材における読みの学習を通して、具体的にどのような読む能力を身に付けたか振り返らせるようにした。</p>  <p>図31 本単元の学習計画表</p> <p>前時までの並行読書で付箋に書き留めてきた内容を、ワークシートの項目に合わせて記入させることにより、子どもの書く負担を減らし、身に付けさせたい能力の確実な定着につなげるようにした。</p>  <p>図33 ねらいを明確にして指導するためのワークシート</p>
7 / 7	<p>学んだことを、日常生活や各教科等の学習においても進んで生かしていけるように、第2次で習得した能力を十分に活用させて、単元終末での望ましい表現活動に取り組みさせるようにした。</p> <p>さらに、自らの成長などを実感できるように、課題解決の方法や学習の成果等について十分に振り返らせた。</p>	<p>3 表やグラフ等が掲載された本についてまとめた筆者の説明の仕方とそのよさを、グループや全体で発表し合う。</p>   <p>写真 グループの考え</p> <p>図35 学習後の子どもの感想</p> <p>4 本単元の学習について振り返る。</p>	<p>第2次の学習で学んだ表やグラフ等を用いた効果的な説明の仕方や、それに対応する箇所を指し示しながら分かりやすく発表させるようにした。また、発表を聞く際には、今後自分が生かしていきたい内容等について、メモを取らせるようにした。</p>  <p>図34 他教科等への活用を促すメモ</p> <p>全体発表では、グループでまとめた考えを一つ一つ教師が称賛し、価値付けていくようにした。</p>  <p>写真 子どもの考えの価値付け</p> <p>単元を通して、どのような読む能力が身に付いたのか、学習計画表を基に振り返らせるようにした。</p>



(5) 検証授業 の成果と課題

ア 成果

(ア) 本単元で身に付けさせたい能力の育成に適した「発表する」言語活動を設定したり、教師がねらいを明確にして指導したりするためのワークシートの工夫・活用など、ポイントを明確にした授業づくりに努めたりしたことが、**図37** - , の結果につながったと考える。

調査に当たって、筆者の説明の仕方を捉える能力については、ワークシートを基に「文章の内容に合った表やグラフの活用」や「数値を用いた文章の活用」などを押さえることができたかどうかで、その達成度を評価した。また、筆者の説明の仕方に対し自分の考えをまとめる能力については、例えば、「文章の内容に合った表やグラフの活用」により、具体的にどのようなよさがあるのか、子どもが考え、まとめた内容を基に評価した。

(イ) 活用の順序や方法の明確化を図り、単元の第2次の中に、第3次と直接関連付けた学習を部分的に位置付けるなど、習得した能力の活用を促す単元構成の更なる工夫に取り組んだ。このことにより、**図37** - の結果から、約9割の子どもが単元の第2次で習得した能力を十分に活用して、第3次表現活動に取り組むことができた。さらに、**図38** - のアンケートの結果から、約8割の子どもが学んだことを十分に活用して、第3次の表現活動に取り組む姿が見られた。

(ウ) **図38** - のアンケートの結果から、学習の見通しや振り返りを効果的に行うためのワークシートの工夫・活用を通して、どのような読む能力が身に付いたか、一人一人が実感し、日常生活や各教科等の学習においても進んで生かしていこうとする意欲の高まりが見られた。

(エ) 本単元では、国語科以外の各教科等にも生きて働く国語の能力の育成を念頭に、単元を貫く言語活動の位置付けを行った。そのことで、総合的な学習の時間における「自分の身の回りの問題について調べ、まとめたことを発表する」学習では、自分の

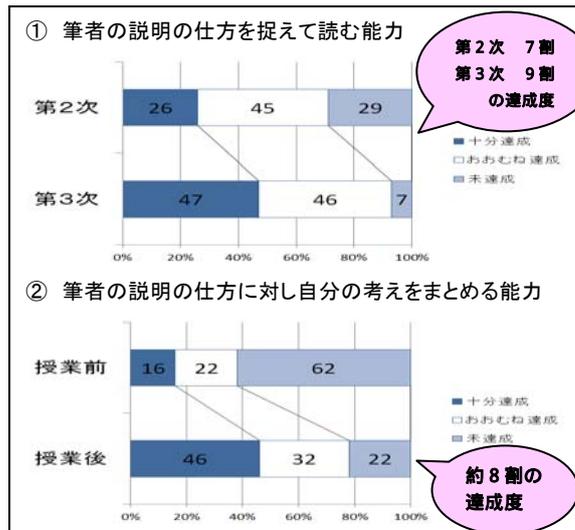


図37 本単元でねらう目的に応じて読む能力の達成度

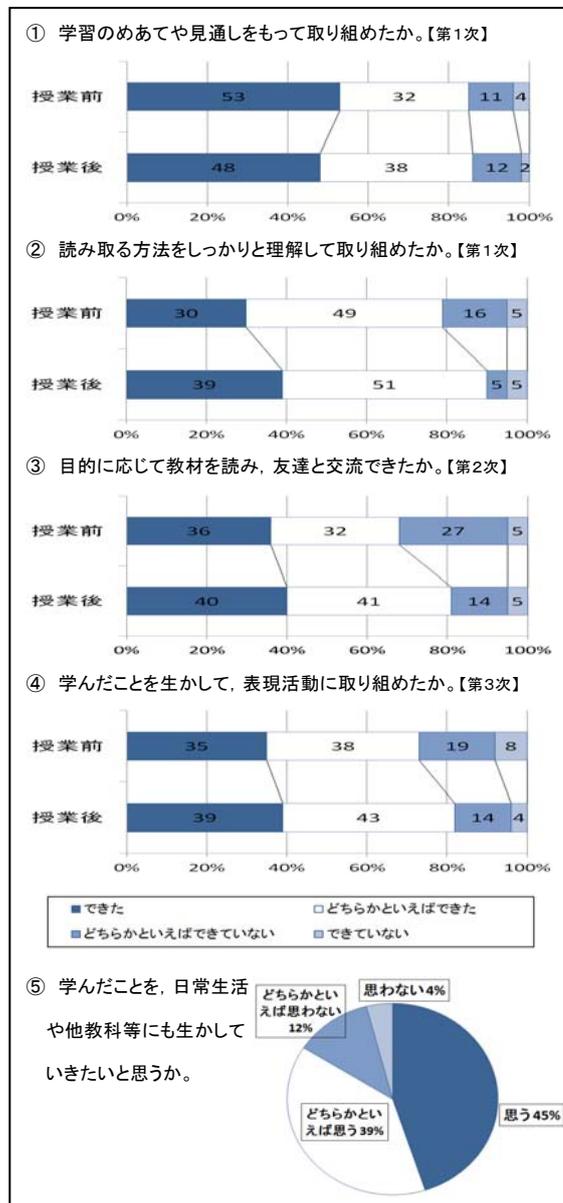


図38 本単元の学習を通じた子どもの主体性の高まり

伝えたい内容に合った表やグラフ等を用いて、数値を織り交ぜたより具体的な説明を行ったり、双括型や尾括型などの文章構成を生かしながら聞き手により分かりやすく説明したりするなど、本単元で学んだ効果的な説明の仕方を積極的に生かす姿が見られた（図39）。

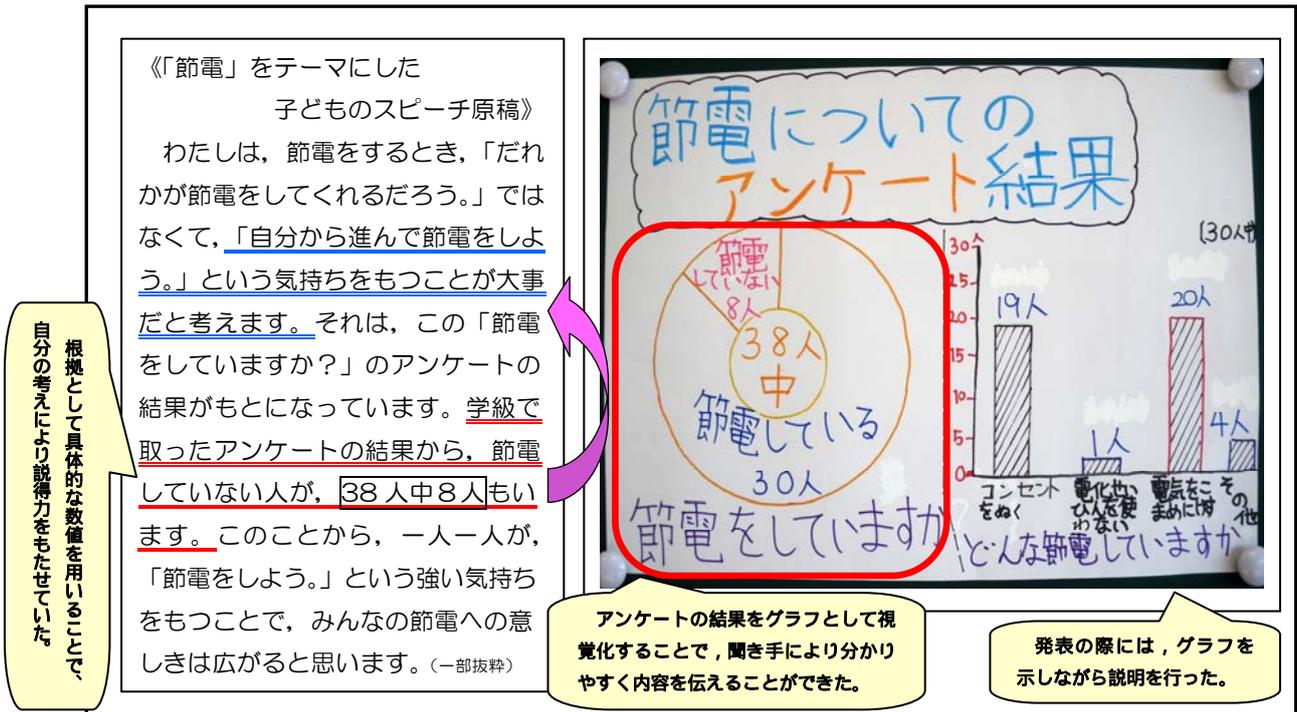


図39 総合的な学習の時間で子どもが発表した内容の一部

## イ 課題

- (ア) 前頁図38のアンケートの結果より、教材を読み進めていく視点等を十分に理解しながら、目的に応じて教材を読み、進んで友達と交流を行ったり、教材での読みを自分の選んだ本にも適用しながら、筆者の説明の仕方を考え、グループや全体で積極的に発表する姿が見られる。しかし、その一方で、学習のめあてや見通しをしっかりともち、進んで学習に取り組むことのできない子どもの割合がわずかに増加している。このことから、単元の導入段階において、子どもの興味・関心を高める学習課題の設定の仕方を更に工夫する必要がある。
- (イ) 前頁図37のアンケートの結果より、筆者の説明の仕方に対し、自分の考えをまとめる能力が、学級全体の約2割の子どもに定着していないなどの現状が見られる。今後、このような単元でねらう能力の確実な定着を図るために、指導法の更なる改善に取り組む必要がある。
- (6) 検証授業 の課題を踏まえた指導法の改善

上記に示された課題を踏まえ、(ア)では、子どもが学習への興味・関心を高め、単元の始めから終わりまで課題を追究し続けようとする学習課題の設定の仕方について、更なる工夫が必要であると考え。例えば、これまでに総合的な学習の時間において作成した発表用の原稿や、録画した発表会での子どもの様子を基に振り返らせ、どのような能力が自分に不足しているかを一人一人にしっかり考えさせるとともに、それを身に付けるためにどのような学習を行っていけばいいか、子どもの思考・判断を促す導入の工夫に努める必要がある。

また、(イ)では、単元でねらう能力の確実な定着を図るために、毎時間の学習で使用するノートやワークシートの自己評価欄等を生かし、指導と評価の一体化を図る指導法の改善に取り組む必要があると考え。例えば、全体的に自己評価が低い場合は、第1時に立てた学習計画の修正を図り、指導時数を子どもの実態に合わせ、柔軟に変更したり、前時に扱った内容を再度授業の中で取り上げ、理解を深めたりするなど、幅のある指導を行う必要がある。ま

た、個に応じた指導の充実を図るために、一人読み（自力解決）の際には、前時に書かせた自己評価欄の結果等を生かして、個別指導の重点化を図るなど、机間指導を効果的に進めていくことも大切な視点となる。

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- (1) 学習指導要領や参考文献等を基に、子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力を育成するための単元を貫く言語活動を位置付けた指導法の改善について、その意義やねらいを整理することができた。
- (2) 子ども及び教師を対象とした実態調査や意識調査などから、子どもの主体性や単元でねらう能力の習得・活用に関する課題をつかむことで、目的に応じて読む能力の設定や、その育成に適した単元を貫く言語活動の指導過程への位置付け方、目的に応じて読む能力の習得と活用を図る単元構成の工夫など、指導の方向性を明らかにすることができた。
- (3) 目的に応じて読む能力を単元ごとに設定し、これらの能力の育成に適した単元を貫く言語活動を選定する流れを明確にしたことで、単元を貫く言語活動を効果的に位置付けた授業づくりを行うことができた。そのことによって、子どもが自ら進んで読みの学習に取り組み、単元でねらう能力をしっかりと身に付ける姿が見られたことから、手立ての有効性を明らかにすることができた。
- (4) 目的意識や相手意識を明確にした言語活動を単元を貫いて位置付け、単元の第2次と第3次との十分な関連を図りながら、習得した能力の活用を促す単元構成の工夫に努めた結果、第2次で習得した能力を生かし、第3次の表現活動に進んで取り組む子どもの姿が多く見られたことから、手立ての有効性を明らかにすることができた。
- (5) 子どもの読みを深めるための書く活動の工夫や、学習の見通しや振り返り等を効果的に行うためのワークシートの工夫・活用を通して、目的意識や相手意識を明確にもって自ら進んで学ぶ姿や、単元でねらう能力を身に付け、日常生活や各教科等の学習においても進んで生かしていこうとする姿が見られたことから、手立ての有効性を明らかにすることができた。

### 2 今後の課題

- (1) 各学年の「『読むこと』の年間指導一覧表」を基に授業実践を行い、単元を貫く言語活動が当該単元でねらう能力の育成に適したものとして設定されているか、他の単元や学年においても検証が必要である。その結果を踏まえ、一覧表の修正を行い、更なる改善を図っていきたい。
- (2) 授業による検証の結果を踏まえ、子どもが学習への興味・関心を高め、課題意識を持続させながら、読みの学習に意欲的に取り組もうとする学習課題の設定の仕方を工夫していきたい。また、毎時間の学習で行う自己評価を、次時の学習指導に積極的に生かす指導と評価の一体化を図った授業改善に努めていきたい。
- (3) 本研究では、高学年において検証授業を行い、単元を貫く言語活動を位置付けた指導法の改善に取り組んできた。今後は、本研究の成果及び課題等を踏まえ、低・中学年における説明的文章の指導にも積極的に生かし、系統性を意識した指導の充実を図っていきたい。

## 引用文献

- |             |                            |        |      |
|-------------|----------------------------|--------|------|
| *1) 益地憲一 編著 | 『小学校 国語科指導の研究』             | 2002 年 | 建帛社  |
| *2) 大村はま 著  | 『大村はま 国語教室 11』             | 1983 年 | 筑摩書房 |
| *3) 青木幹勇 著  | 『第三の書く 読むために書く<br>書くために読む』 | 1986 年 | 国土社  |

## 参考文献

- |                      |   |         |        |
|----------------------|---|---------|--------|
| 文部科学省                | 『小学校学習指導要領 国語編』                         | 平成 20 年 | 東洋館出版社 |
| 文部科学省                | 『言語活動の充実に関する指導事例集<br>【小学校版】』            | 平成 23 年 | 教育出版   |
| 文部科学省                | 『月刊 初等教育資料 平成 24 年 4 月号』                | 平成 24 年 | 東洋館出版社 |
| 田辺洵一・井上尚美 編          | 『国語教育指導用語辞典』                            | 2011 年  | 教育出版   |
| 大西道雄 著               | 『国語科授業づくりの理論と実践』                        | 2009 年  | 溪水社    |
| 大越和孝・成家亘宏<br>藤田慶三 編著 | 『小学校国語 「読むこと」の<br>言語活動例の展開』             | 2009 年  | 東洋館出版社 |
| 水戸部修治 編著             | 『小学校国語科 言語活動<br>パーフェクトガイド 5・6年』         | 2011 年  | 東洋館出版社 |
| 水戸部修治・鯨井幹夫<br>編著     | 『小学校 新学習指導要領の授業<br>国語科実践事例集 (5年・6年)』    | 2011 年  | 小学館    |
| 横浜市小学校国語教育<br>研究会 著  | 『豊かな言語活動で確かな国語力を！<br>- 言語活動別言語能力系統化 - 』 | 2006 年  | 明治図書出版 |

長期研修者〔 田野辺 浩一 〕

担当所員〔 山鹿 真人 〕

#### 【研究の概要】

本研究は、本校の国語の学習で課題とされている説明的文章の指導において、子どもの主体性を高め、目的に応じて読む能力の育成を図るための、国語科学習指導の在り方について研究したものである。

具体的には、目的に応じて読む能力を単元ごとに設定し、その能力の育成に適した単元を貫く言語活動の種類や特徴などの明確化を図った。さらに、これらの能力の習得・活用を図る単元構成を工夫するため、単元を貫く言語活動を位置付けた指導過程等の工夫改善について、授業を通した検証を行った。

その結果、学んだことを日常生活や各教科等の学習にも進んで生かしていこうとする、子どもの主体性が高まり、単元でねらう能力の育成につながる事が明らかとなった。

#### 【担当所員の所見】

本研究は、文部科学省作成の「言語活動の充実に関する指導事例集」に示されている「単元を貫く言語活動を位置付けること」について、実践・検証したものである。

国語科において言語活動の充実を図る際の指導上の課題となっているのが、言語活動が「目的」になっており、「活動あって学びなし」の授業に陥りがちであるという点である。その克服に向けて、中教審答申で述べられている「日常生活に生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」の育成を「目的」として、「手段」としての「単元を貫く言語活動」を、どのようにして位置付け、指導するのがよいか、ということを中心に研究してきた。

本研究の特色として、指導過程上の工夫を2点挙げる。一つは単元の第2次における視点を明確にした読みと、もう一つは並行読書によって第2次と第3次の有機的な関連を図った点である。視点を明確にした読みについては、教科書教材の表現形式（述べ方）を捉えて、第3次の表現活動に直接活用できるように工夫している。また並行読書については、読書に関する態度の育成と表現活動への主体性の喚起を図る上で、有効な取組となっている。

現在、国語科指導上のキーワードとなっている「単元を貫く言語活動」について、今後も更に研究を深め、国語科指導の充実に努めてほしい。